



ともにあゆむ

21年の間に訪れた
全ての出会いに感謝して...



梅村 紅美子



—表紙の作者、澤田直見さんとの出会い—

「人生の出会い」って素敵だなあって、そう思うことがあります。澤田さんとの出会いもそのひとつです。

数年前、お店で手にとった1枚のはがきが、縁を結んでくれました。

落ち込むことの多かったその頃の私の心に、すーっとあたたかいものを運んでくれました。

作品のひとつひとつと、インターネットで何度か作品を注文させていただくメールのやりとりで、一度もお会いしたこともないのに、不思議な親近感を覚えました。

この冊子を作ろうと思ったとき、苦しいとき、つらいとき、私を励まし、支えてくれた澤田さんの作品で飾らせてもらえたらうれしいなあと思いました。

その突拍子もない私の願いを快く受け入れ、素敵な表紙に仕上げてくださいました澤田さんに、この場を借りて、心から感謝をいたします。ありがとうございました。

これを機に、たくさんの方々に澤田さんの作品を、知っていただければ幸いです。



Profile



澤田直見(さわだなおみ)さん

1970年5月23日生まれ

2000年頃から「うさぎとかめのふたりごと」シリーズで言葉絵作品を発表。ポストカード、カレンダー等全国的に販売。兵庫県尼崎市生まれ、現在鳥取県智頭町在住。

<http://www.h4.dion.ne.jp/~nodoka/index.htm>

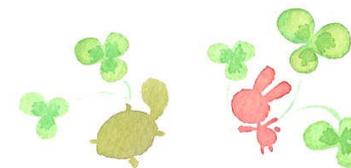


兵庫県の尼崎で生まれ育ったわたしですが、いつからか自然に近いところでの暮らしに強く惹かれるようになりました。憧れの田舎暮らしを実現すべく、俗に言うIターンで2001年に鳥取県の智頭町という町に越してきました。

2002年の4月から3年間、智頭町内の山の中、板井原というところで「野土花」という小さな喫茶店を経営。2005年4月に結婚して、それを機にお店は辞め、現在は念願の田舎暮らしを楽しみながら、言葉絵作家として活動中です。



描くことはわたしにとって、暮らしの中のひとつ。好きなことはたくさんあります。料理すること、食べること、写真を撮ること、畑の作業、本を読むこと、友人を迎えること…etc.今はたまたま描くことが仕事になっていますが、さてさて、この先どんな暮らしや生き方を耕していくのやら…わたし自身も楽しみです。



も く じ

- | | | | |
|-----------------------------|------|------------------------|------|
| □ 「退職」になるなんて・・・ | P 3 | □ 子どもたちとの思い出 | P 30 |
| □ 「働くこと」の原点 | P 4 | □ 心機一転「地域医療連携室」立ち上げ | P 31 |
| □ 「民医連綱領」との出会い | P 5 | □ 平和を守りたい！ | P 35 |
| □ 病院3期工事の過渡期 | P 6 | □ ケアマネとして再出発 | P 37 |
| □ 青年運動の先頭に立って | P 7 | □ 無差別・平等は民医連綱領の『憲法9条』！ | P 39 |
| □ 迷ったときも仲間と学んで | P 8 | □ ありがとう！学童保育のなかま | P 41 |
| □ 青年運動での出会いで結婚 | P 9 | □ 私を救ってくれた九州の人たち | P 43 |
| □ 初めての出産・子育て | P 10 | □ サークル仲間の病気と別れ | P 44 |
| □ 子育てのとまどいと仕事との両立 | P 11 | □ 「線維筋痛症」と診断されて | P 45 |
| □ 頸肩腕障害で休職 | P 12 | □ 全国から支えてくれている仲間たち | P 47 |
| □ 復職して庶務課へ | P 13 | □ 新たな出会いとあったかいつながり | P 49 |
| □ やったあ！第2子出産！！ | P 14 | □ 政年さん、みずき、航太、ありがとう！ | |
| □ 子育てに躓き、自分をふりかえる | P 15 | □ これからも、よろしくね!! | P 51 |
| □ 大人の大きな輪の中で | | □ 5/10「ありがとうの会」 | P 53 |
| 子どもたちを育てたい | P 16 | | |
| □ 子育て応援団の両親に感謝！ | P 20 | | |
| □ 医療宣言づくりと民医連総会 | P 21 | | |
| □ いきなり事務長室課長へ | P 22 | | |
| □ 「プロジェクトX」並みの
難工事を乗り越えて | P 25 | | |
| □ そんな中で、我が家は・・・ | P 27 | | |
| □ リニューアル完成！
中味はどう変わったかな？ | P 29 | | |



「退職」になるなんて・・・

こんな形で、自分が退職することになるなんて、思いもかけないことでした。もちろん、今年2月に介護支援事業所へ異動し、リハビリ勤務を始めるときに上司から「休職期限にフルタイムで勤務ができなければ『自然退職』だからね」とは、言われていたけれど、何とか体調をそれまでに整えるつもりでいたから。

就職してから、21年間。長かったようだけど、あっという間だった気がします。愛してきた職場で、ずっと働き続けたかった。

悔しい思いと、涙があふれる日々。

「私、4/15付けで退職になったの」というと、大半の人は「えーっ、なんでー」でも、中には「よかったね」「今までがんばりすぎてきたんだもん」と言う人も。

「人生まだ真ん中らへん」「ゆっくり休んで、身体を整えて、後半はぼちぼちするのもありかもなあ？」

泣いても、笑っても、同じ時間を使うなら、いいことに使おう。

21年間を振り返ってみたら、なんとたくさんの出会いに恵まれ、びっくりするほど自分の世界が広がっていたことに気づきました。

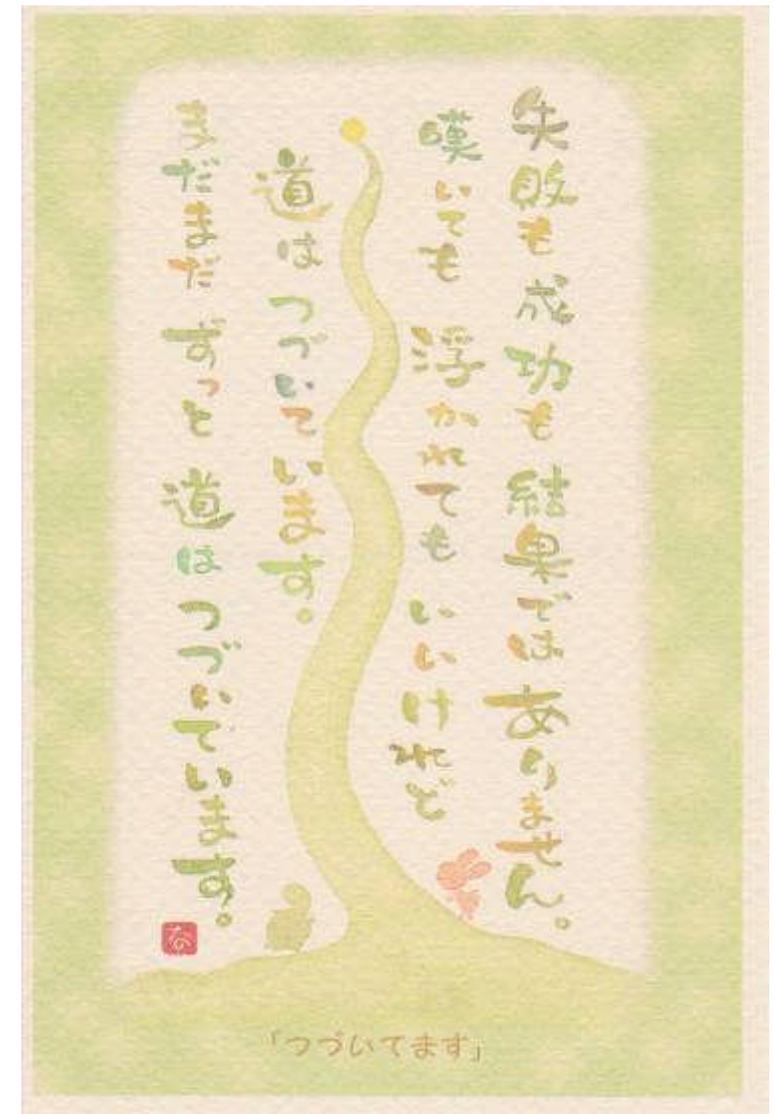
たくさんの仲間がいて、私のことを心配してくれています。

「ありがたいなあ」

「がんばりすぎちゃったけど、本当にバカがつくほど、真面目にやってきたなあ」これまでの出会いと、たくさんの仲間とのつながりが、きっと、これからも私を励まし、支え続けてくれる力になる。

そんな気がしています。

人生の区切りとして、21年間を振り返って、出会いとつながりに「感謝」をこめて！



「働くこと」の原点

大学を選ぶとき、福祉の仕事をしたいと思って、日本福祉大学を選びました。

サークル（視覚障害者福祉研究会）や青年運動で、たくさんの仲間と力を合わせることに、目標に向かって力を発揮することを学びました。

人が集まれば、肩を組み、歌を歌い、語り明かした日々。

ゼミでは、「人権としての社会保障」の第1人者小川政亮先生（現、日本社会事業大学名誉教授）に、「人々の願いは、社会の矛盾と闘う中でしか実現できないこと」を学びました。

それができる職場として、南医療生協への就職を決めました。



卒業式後に先生を囲んでゼミのみんなと

答 辞

《前略》

1983年4月、美浜キャンパス一期生として、はじめてあの坂道を登ってから、はや4年の月日が流れました。

《中略》

先輩・後輩と、時には口争いもしながら力を合わせてつくってきたサークル活動。現場へ飛び込んでみて、現実の厳しさを目の当たりにした課外実習。高校時代とはちがった主体的な学習姿勢を求められ、自分なりの考えを言葉にして討論することの難しさを痛感した専門研究。

社会福祉という学問は、人間の生活に関わるものであるがゆえに、時として、自分自身の生き方が大きく問われることもありました。

そのために、いままで自分とは別の世界のようにしか考えられなかった社会の出来事を、自分と結びつけて考えられるようになってきたのでした。

私たちが入学してから、4年間の間に「戦後政治の総決算」を自ら公言する中曽根内閣は、戦後のたたかいの中で、人々がひとつひとつ勝ちとってきた権利と制度を根こそぎ掘り崩そうとする動きを強めてきました。

国民の、老人の生命をないがしろにする健康保険法・老人保健法の名ばかりの「改正」、私学助成金の大幅削減、そして、国民の間でいま大きな怒りをまきおこしている売上税、マル優廃止。

それらから目をそむけることはたやすいことかもしれません。

けれども、人間が人間らしく生きにくくなっているからこそ、問題から逃げ出したり、素手で空しい闘いを挑むのではなく、人間らしい力を身につけて、時代を生きなければならないのです。

このことに気づいたときから、ゼミで、サークルで、そして講義で学んだことが、私の中で生き生きと輝きを持つようになったのです。

この輝きは、社会へ出た後も、私を支えてくれるものと確信しています。

「福祉大学は日本一の大学ですよ」とおっしゃったのは、退官された近藤薫樹先生でした。

この大学の30余年の歴史は、国民に開かれた大学創造への道りでありました。

そこには、人類の歴史の流れに逆行するものたちとの、たゆみないたたかいがありました。

幾度とない学園の危機を、そのたびに全大学人の総意と行動によって乗り越えてきたのです。

《中略》

私たちが、いま歩き始めようとしている道は、決して平坦な道ではないでしょう。

いつの時代もそうであったように、力を持つ者は、多くの弱い者の犠牲の上にあるのですから。

けれども、私たちは知っています。

人間のいのちとくらしを守るたたかいは、「売上税」反対のたたかいのように、いつか大きなうねりとなることを、自分自身が一步前へふみださねば、何も変わりはないということ。

《中略》

私たちは、この日本福祉大学でつちかってきた力を、人間が人間らしく生きていける、平和で豊かな社会をつくるために、私たちを求めている人々の間に、しっかりと根をはって、強く生きていく決意です。

1987年3月25日 日本福祉大学 卒業生代表 安井紅美子

「民医連綱領」との出会い

1987年4月、私は南生協病院受付(病歴室)に配属されました。新入職員教育では、はじめに「民医連綱領とは？」の講義を受けました。「業務基準」ではなく「私たちの羅針盤」、「個人目標」ではなく「団結の旗印」、「民医連単独の目標」ではなく「国民みんなの共通目標」という講義を聞いて、「こここそが私の求めていた職場だ！」と思いました。

当時は、古い受付の奥に「細い職員しか入れない」カルテ棚のスキマをぬようにして、カルテの出し入れをしていました。住所と氏名で構成されているカルテ番号を暗記して、目を瞑っていてもカルテを出せる神様(石川正さん)がいました。先輩たちからは、「病気だけを見るな!」「カルテからその人の生活背景をも読み取るんだ!」と言われて、教育されました。

それは、今でも私の信条でもあります。保険請求中は、毎日深夜までの残業。カルテの出し入れしかできない新職の私たちは早めに上がらせてもらっていましたが、12時ぐらいに保険請求残業が終わると、「さあ、サガミに行くぞー!」と声がかかり、細い身体なのに、こんな夜中に「力餅うどん」をぺろりと平らげる大野さんはいったいどういう強靱な胃袋の持ち主かと、思っていました。

大学は自宅から往復4時間の遠距離通学だったので、「就職したら絶対に職場の近くに住もう!」と決めていましたが、病院のすぐ裏のどう見てもあばら家にしか見えないアパート(松風荘)の階段をぎしぎし上って案内されたときは腰が引けてました。

でも、住めば都。隣りの先輩たちと一緒にわいわい楽しくやってきました。



病院3期工事の過渡期

1988年には、桃山診療所がオープンし、病院はC棟を増築する「第3期工事」の真っ最中でした。当時は、まだ診療現場には事務配置がなかったのですが、最初の内科診療事務として私が抜擢されました。待合がとても狭く、中待合はもっと狭く、いつもごった返していました。

午前診療中に救急車の対応が入ろうものなら、もう上を下への大騒ぎ。患者さんの対応に手をとられている看護婦さんの代わりに、医局に外来応援の医師を依頼したりもしました。

午前診療が終わると、「あれっ、〇〇さん今日来とらんかったねえ」「あぁ、私が午後家に様子見に行ってくるわー」ということが日常茶飯事。救急外来の患者さんたちもホームレスの方が多くて、「体調が悪いで、一宮から一晩歩いてきた。入院させてほしい」という人も。ホームレス仲間の中では、「いざというときには、南生協病院へ」といううわさが広まっていたと聞きました。



梅村さんへ

私が紅美子さんに会ったのは今から20年程前、あなたが南生協病院に就職してからです。労組青年部でも共に活動しましたが、特に18~19年程前、民青同盟の活動を共にしていた事が印象的です。紅美子さんは、いつも前向きでまじめで、自分の生き方を貫き、ひたむきに活動していました。おしゃれでいろんなセンスもあり、知的で素敵な人だと思っていた。私は時々くじけそうになったりした時も、紅美子さんの姿に励まされ、刺激を受けてきました。

あの頃、みんなで選挙活動の時に「替え歌」を作って歌ったり、おそろいのジャンパーやポロシャツを着てピラ配りをしましたね。青年たちで楽しくやったから、つらいこともがんばれたかなという気がします。その後それぞれ結婚し、子育てもし、保育園や学童の父母会で、どこの場所でも力を発揮し頼りになる存在の紅美子さんでした。

南生協病院を退職されるということで、とても残念でさびしいです。本当にお疲れ様でした。きっとどこにいても、自分の生き方や仲間を大事にして自分らしく生きていく人だと思います。でも、無理をし過ぎないようにしてくださいね。

家も近いし学童でもまた会えますね。これからもよろしくお願いします。

病児保育「にこにこ」

加藤敦子



青年運動の先頭に立って

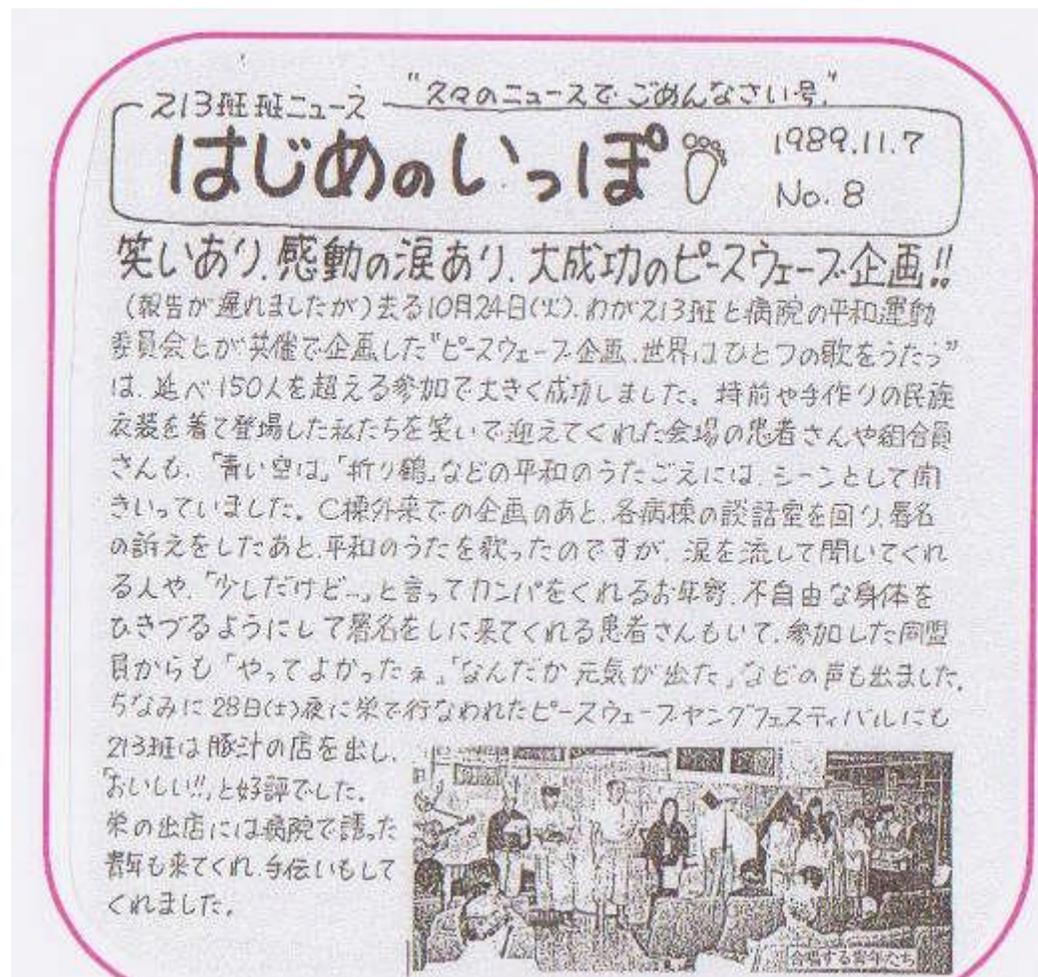
当時は、病院でも、労組青年部やジャンボリー、民青同盟など、さまざまな青年運動がありました。

中でも、私は大学時代からがんばってきた民青同盟の南生協の班活動を、もっともっと楽しく活性化させたいと思っていました。

新たな班役員を決めて、民青新聞の配達・集金の乱れを改善して、みんなの要求を実現する楽しい活動を通して、世の中を良くしていきたいと、情熱に燃えていました。

一緒にがんばってくれる仲間もたくさんいて、食事会をしたり、ピクニックに行ったり、仕事の悩みも相談できて、充実した日々でした。

病院の「平和運動委員会」との共催で行った「ピースウェーブ企画」は、毎年好評で、世界平和を願って世界各地の民族衣装を着て130名もの参加者から喝采を受けたり、1円玉を数え切れないくらい集めて、「ピースウェーブ」の文字などの大きな看板を作ったり、病棟を回って平和の歌を談話室で歌ったりもしました。



迷ったときも仲間と学んで

就職して、しばらくしてから、「私ってこの仕事に向いているんだろうか？」と迷ったときもありました。

そんな時、地域の労働者を対象に開催されていた「労働学校」に、何度か通いました。三菱や東亜合成などの大企業で働く青年労働者たちとも、そこで知り合い、ともに学びました。

「逃げ道を準備してはダメ！」

「それでは、どこへ行っても、同じ壁にぶつかるよ！」と励ましてくれた講師の先生の言葉や、仲間との会話の中で、この南医療生協でがんばっていこう！と思いました。

目の前の患者さんが抱える病気の背景にある生活の困難の源を変えて、世の中を良くしたいという気持ちはますます強くなり、青年たちと替え歌やお揃いのTシャツやジャンパーなどを作って、選挙の応援にも参加しました。



「なんてたって ANDO~」

1. なんてたって ANDO~ 選挙資金はいるけど
 なんてたって ANDO~ 汚い金ならノーサンキュー
 イメージが肝心よ
 清く 正しく たくましく
 なんてたって ANDO~
 わたしは ANDO~
 なんてたって ANDO~
 すてきな ANDO~

消費税は許さない
 企業献金ゆるさない
 誰のための政治かと
 そうよ あなたたち
 気づかなくっちゃ イヤイヤ
 ANDO~ は やめられない
 Yeah! Yeah! Yeah!
 なんてたって ANDO~
 なんてたって ANDO~

安藤巖衆議院議員応援歌 「なんてたってアイドル」の替え歌を鶴舞の公会堂の舞台や路上でも熱唱して、応援しました。



青年運動での出会いで結婚

1990年9月15日、就職してから、民青同盟の活動で知り合った地区委員長と結婚しました。彼は、大学卒業後、高校の国語の教師をしていましたが、「世の中をよくしたい」「平和な社会にしたい」と教師を辞めて、民青同盟の専従をしていました。

いつも前向きで、明るく、献身的に活動する彼を、私は尊敬していました。

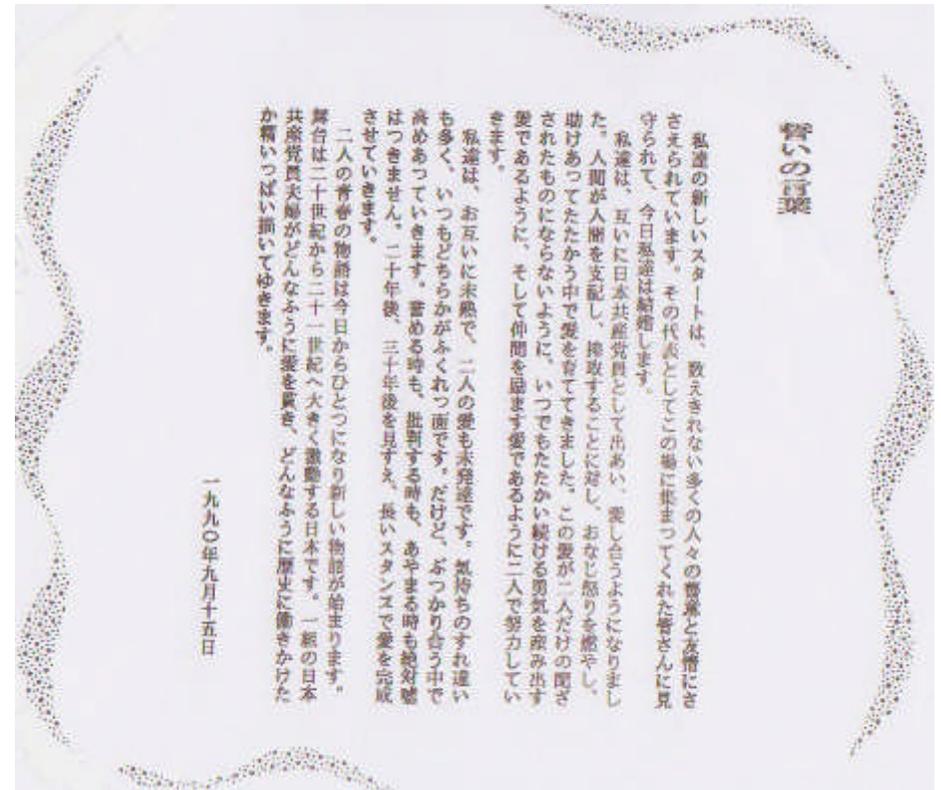
でも、出会った頃はお互いに付き合っている相手がいる、お互いのことを頼りになる同志としか思っていませんでした。しばらくして、同じような時期にどちらも失恋をして、お互い励ましあったりする中で、つき合うようになりました。

貧乏ヒマなしの専従との結婚に、同じ志を持つ私の両親もその苦勞がわかるがゆえに心配してくれました。でも、「生きる道が同じ人と、生きていきたい!」と思い、結婚しました。

会費制で、仲間たちに実行委員をお願いして、すべて手作りの結婚式には、200人を超える友人・親族が集まって祝ってくれました。



職場のみんなとの記念写真



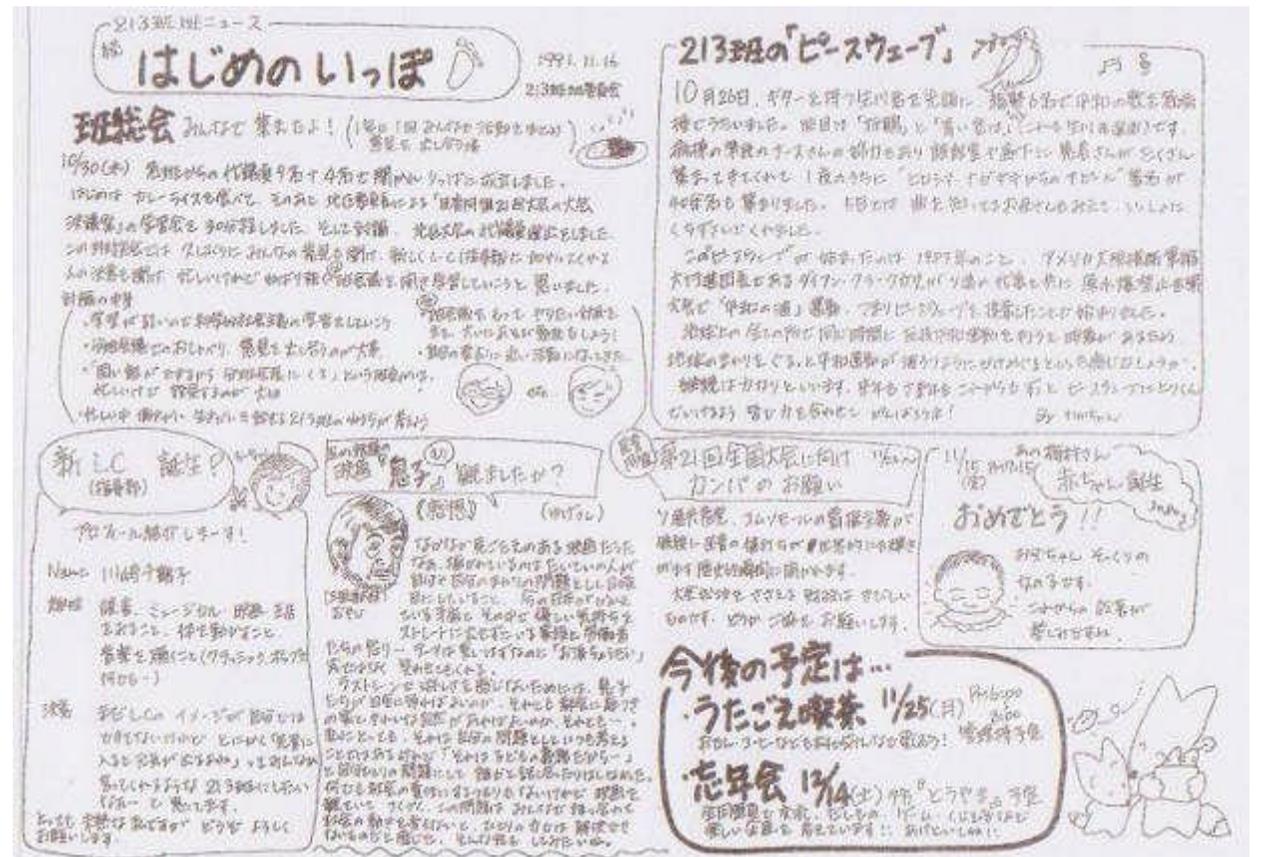
初めての出産・子育て

結婚前から、子宮の炎症でたびたび入院していたものの、一向に炎症のよくなるまい私は、石井先生に「子どもを産むか、子宮を取るか、どちらにする？」と迫られて、決意したとたん妊娠して、1991年11月15日長女みずきが生まれました。途中みずきの心音が取れなくなって、緊急の帝王切開というまさかの展開でした。

夫は、生まれたばかりのみずきを抱いて、「この子がお嫁に行くときのことを考えると涙が出てくる」と言って、かわいがっていましたが、私は出産後すぐに再発した子宮炎に苦しみながら、手探りの子育てに不安がいっぱいでした。



みずきと初めてのツーショット



子育てのとまどいと仕事との両立

産休明けで、みずきをつぼみ保育所に預けて、仕事に復帰。

当時、入院会計だった私は、帰りの遅い夫と調整しながら、実家の両親にも手伝いに来てもらいながら、残業をしていました。

深夜に及ぶ残業のときは、おっぱいが張ってトイレでしばったりとしんどい時期でした。

でも、昼休みに育児時間をもらって、つぼみ保育所に行って、授乳しながらほかのお母さんたちや保育士さんとおしゃべりをするのがホッと息が抜ける時間でした。

自分が母親になって、初めて働きながら育ててくれてた親のありがたみがわかりました。

両家にとって、初めての孫だったので、本当にかわいがってもらいました。



つぼみ保育所で昼休憩のひとつ

その頃、職場でめいきん生協（購買生協）の共同購入班通称「わかづま班」（若干若妻でも女性でもない班員もいましたが）を作っていて、夫への不満や子育ての不安などを「交換ノート」で交流していました。いまも我が家には5冊に渡る当時のノートが残っています。

それとは別に、職場の1歳ずつ年の違うの子持ちの母4人で、「子持ちししゃもの会」を、食べ物を持ち寄って、持ち回りで子ども連れの交流もしていました。

私の子育てを支えてくれた大切な仲間たちです。



みずきの初節句



職員食堂で事務仲間と

『ちやうどなかに』
93年2月号

共同保育所を守り
引きつけていきたい！

栗村 穂村

初めてつぼみ保育所を預けたときは、ギンギンさしむ床や隣の寝の静さに驚きました。が、手づくりの保育のあたたかさ、空となくうらやましさを感じました。

めいこのは、母から聞いていた私の子どもたちの保育の話を思い出したからです。

そのころはまだ産休も保育はなく、母たちの運動で

二ヶ月で市立保育所に入れたものの「保育時間は二時まで」という役所に対して、「母は「五時半まで迎えにいかない」と実行欲。おむつを覚えてもらえず、ベッドに一人といっ状態に付き、やっと寝た」といった長時間保育がと。そんな先輩の保育運動のなかでつくられてきた共同保育所は働く母親の頼もしい味方です。

私自身、初めての子どもで、産後ができたというのでは不安になり、残業で子どもと接しにくいかかわれないという不安は、そのたびに保母さんにどわはどわと助けられたことだらけ。

入所したころは上を向いて寝ているだけだったわが子が保母さんの働きかけに導かれて日に日に成長していく姿をみて、喜びと同時に乳児保育の大切さも実感しました。

共同保育所の「はらりささ」を知らず、袖ぐのをあきらめている人も多いのではないのでしょうか。まぐの先輩保母さんたちがつくって育ててきた共同保育所を、まぐは私たちが守り、いつか彼らに引きついでいきたいと思っています。

頸肩腕障害で休職

92年、入院会計から、外来会計へと異動になり、全科集中会計で午前中に一人100件は会計入力をしていけないようなスピードが求められるようになりました。

もともと肩こり症ではあったのですが、頸や肩の痛み、腕の痺れなど、症状がどんどんひどくなって、気づいたときにはかなり重症の頸肩腕障害で長期の療養が必要な状態でした。

子育ての疲れもあったと思いますが、休みに入ってから3ヶ月くらいは病院と保育園のお迎えに出かける以外は、ずっとカーテンを閉め切った部屋の中で、布団にもぐりこんでいました。

リハビリの森岡さんには、本当にお世話になりました。

リハビリ、はり・灸、温泉などの治療の甲斐があって、休職期限内になんとか復帰できました。

病欠中に受付課に異動になり、私の欠員分は臨時の職員の補充がしてもらえて、安心して休み、じっくりと身体を慣らしながら、復帰ができました。理解ある上司と職場の仲間のおかげだったと、本当に感謝しています。



人生の行きずい証言



梅村さんと初めて話をしたのは、みよし保育園での父母会のどこかだとは思いますが、確かな記憶はありません。しかし、お互い共働きしながら、子育ての過程で不思議な距離関係と不思議な仲間意識を感じずにはられない、そしていつもやる気と能力に溢れていて憧れる存在でした。

お互いに結婚する前にも名前も知らない話した事も無い同士でありながら、同じ場所（大同駅前）で何度も遭遇していました。みよし保育園とほしぎき保育園でお互いの子どもどうしが同じクラスであり、父母会の役員として一緒だったり、学童は別々でも区連協行事等で会ったり、ほぼ同じ時期に同じだけ、子育てに関った時間を違う環境でありながら共有していた気がします。たまたま、何度か人生の交差点（ターニングポイント）ですれ違っている気がします。

苦しいこと、辛いことが続くときは新たな人間関係と人生の方向が変わる前兆だと思います。あなたらしい発想と行動力で豊かな生き方を継続しつづけてください。つぎの交差点でまた会いましょう。

寺田康男

復職して庶務課へ

1994年4月、フルタイムに復帰すると同時に、私は庶務課へ異動になりました。それから、私は6年間庶務課で働きました。

私は、当時管理棟3階にあった庶務課で、勤務表の点検、ロッカー管理、白衣の管理、小口金庫の管理など今まで見えてなかった病院を裏から支える仕事を初めてしました。

庶務課には、とても穏やかな千葉さんとパートの加藤さんがいて、たぶん私の生協暦の中で、一番穏やかでゆったりとした時間を過ごしたひと時だったと思います。

千葉さんは、病を患ってみえましたが、その気配をまったく感じさせないほど、淡々と仕事をこなし、でも、平和運動では「千葉さんといえば平和のメロン」と言われるほど、原水禁派遣へのカンパ活動にも熱心に取り組まれていました。

いつも愚痴ひとつこぼすことなく、ご家族の話をする時の千葉さんはとても幸せそうでした。病気が悪くなってからはずいぶんお辛そうでしたが、それでも業務の引継ぎに病室に行く私に、「この透析の機械はね…」と説明してくださったり、あまりに普通にしてみえるのでこちらのほうが泣けてきてしまうこともありました。

千葉さんが亡くなったときには、お見送りのために集まった職員で病院裏はいっぱいでした。いろんなことを教えてもらった、尊敬する先輩です。

当時は、庶務担当と用度担当とに部屋も業務内容も別々でしたが、新しい人が来るなら、と、私は週に1回用度が各部署からの発注にしたがって、医療材料を部署別に仕分けをして運ぶ、「払い出し」という業務もやることになりました。女性が払い出しをするのは、南生協病院始まって以来のことでした。病院の医療現場を知る、貴重な経験だったと思います。

パソコンの技能を教えてもらったのも庶務課時代でした。

当時、たぶん生協一パソコンに強かった新見さんや中村さんに伝授してもらったおかげで、ビラやニュースなど、自分の表現力がぐんと広がった気がしました。

また、リニューアルの推進委員会事務局として関わりだしたのも、このときからでした。

21年間お疲れ様でした。

初めてお会いしたのは庶務課でしたね。若くて綺麗ですごく華奢で壊れそうでした。

千葉さんが「(有能な)梅村さんになんの仕事をやってもらえば良いんだろう」とソワソワしていたのを思い出します。

とにかく一生懸命よく働く人でびっくりしました。とても気持ち良く一緒に仕事が出来感謝してます。

梅村さんほど南医療生協を愛してる人はいないと思ってます。入院しても仕事してましたね。

はなむけの言葉は「動」「静」「楽」です。楽しく動いたら休み、楽しく休んだら又動く。うごいてやすむ、楽しむ心です。これは天野泰司という人の本にでてくる言葉です。

これまであまりにも「動」ばかりだったと思います。



休むことを楽しんで下さい。
ありがとうございました。

南生協病院
庶務課 加藤和代



やったあ！第2子出産！！

みずきが3歳になる頃から、同じクラスの子たちに兄弟が生まれ始めました。

「うちにはどうして赤ちゃん来ないの？」と言われて、「よし！じゃあ二人目を！」と思ったものの、これがなかなかできず。

2年後、待望の長男航太を1996年7月5日に帝王切開で出産しました。4020gという記録的な大きな赤ちゃんに、みんなびっくりでした。

愛しい航ちゃんのお母さんこと 梅村紅美子さま

梅村さんとは、航ちゃんが0歳児で入園してからのおつきあいです。大きく生まれた航ちゃんを、細い身体で「かわいくって、かわいくって」となめるようにかわいがり、抱きしめていたのを思い出します。

航ちゃんが卒園するまでの6年間、何度か体調を崩しながらも、いつも笑顔で保育園に顔を出し、私は元気をもらっていた気がします。

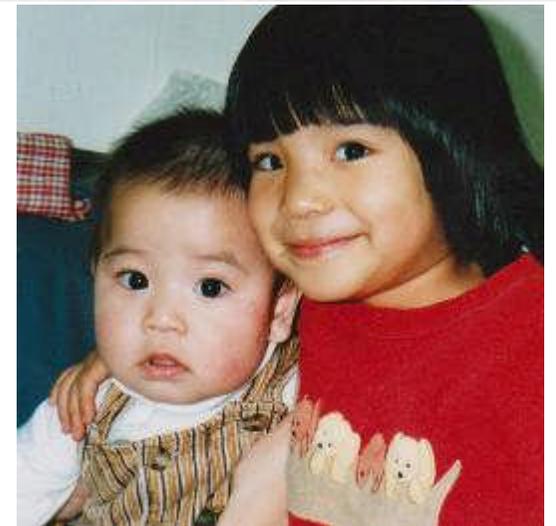
お父さんとともに、ほしぎきの保育や私の保育を、親の立場で支えてもらい、私は子どもたちと本当に楽しくてかけがえのない日々を過ごすことができ、感謝しています。(今も時々思い出しては、胸が熱くなります)

毎年いただく年賀状では、航ちゃんの近況とともに、梅村さんの仕事への情熱をうかがい知ることでもでき、同じ働く者として、励まされる思いがしていました。

今回、退職されるとのを知り、残念ではありませんが、まずは健康を取り戻し、また、新たなる一步を踏み出されることを期待します。

今度OB会で出会うときには、一緒に語り合いましょうね～！

ほしぎき保育園 寺尾直子



↑かわいい弟を自慢げなみずき
←ほしぎき保育園の入園式
(航太9ヶ月)

子育てに躓き、自分をふりかえる



航太が生まれてしばらくしてから、みずきの爪噛みがひどくなっていることに気づきました。

それまでも、航太をわけもなくパシパシたいたり、自分のほうに注意を向けたくて授乳中の私に「みーちゃんどこにいるかわかる人？」と声をかけて、「はい」と私が手を上げると、「いるとこわかってるのに、ちっとも見てくれん！」と怒ったりと、気になることがいろいろありましたが、ひどい爪噛みで爪の根元まで化膿している指を見たら、「このままではダメだ！」と思わずにはいらませんでした。

航太のほうを向いて寝ているときに、甘えたいけど甘えられないみずきの気配に「嫌悪感」さえ抱いてしまう自分にも、自己嫌悪の毎日でした。

その頃ちょうど、間宮先生の「アダルトチルドレン」の講演を聞く機会があり、それから私はカウンセリングに通い始めました。

そこで、自分の生い立ち、結婚、出産をふりかえる中で、自分の中に「癒されない子ども」がいることに気づいたので。

みずきではなく、私の問題だったのです。

保育園で先生たちに相談をしたり、本を読んだりしながら、みずきとの接点を今までよりも密に持つようにしました。

2人の時間を持つ中で、みずきの爪噛みはよくなり、半年後には2年ぶりに爪を切ってやることができました。

「子育ては親育ち」とは、まったくそのとおりだなあと思っています。

親まで育ててもらった保育園に感謝、感謝です。



小学校卒業式の日井上ちゃんと
(右が井上ちゃん、真ん中がみずき)

みーちゃんのおかあさん

はじめて みよし保育園からほしざき保育園に来るお母さんたちは、子どもたち同様、それ以上に不安がいっぱいです。梅村さんからは、みーちゃんのこと早くわかってほしい思いが詰まったお手紙をいただいたのを覚えています。

私にとってはみーちゃんたちが初めての4・5歳児の保育でした。年齢も同じくらいのお母さんが多く、一緒に悩みながら子育てや保育をしたことを思い出します。梅村さんもそんなお母さんの一人でした。なかなかストレートに気持ちを出すことができず我慢してしまうところのあるみーちゃんの姿に真剣に悩んで、梅村さん自身の育ちを振り返るということもありましたね。

そしてそんな父母の皆さん（梅村さんは役員として）にいっぱいささえていただき楽しく保育することができました。（中止になった合宿の代わりに企画してくださった朝明のデイキャンプ等）

その子たちももう17歳です。20歳になったら焼き肉を食べに行こうと約束しています。その時に年をとっていても人生のちょっと先輩として 変わらない何かをもちつづけていきたいですね。

井上 由美子（ほしざき保育園）

大人の大きな輪の中で子どもたちを育てたい

自分が子育てに躓いてから、それまで以上に「親同士のつながりをもっと強く持ちたい！」
「ひとりぼっちの子育てをなくしたい」と思うようになりました。



当時、わが子を虐待で殺してしまうというニュースが後を絶たなかったせいもあるかもしれません。
他人事じゃなく、自分も紙一重のところにいるんじゃないか？そう思うと、せめて自分の子どもや
身近な子どもたちは大人が手をつないだ大きな輪の中で、安心して育ててほしい！そんな思いに駆られていたころでした。

梅村 紅美子様

初夏です。わかばが青々しく美しい季節ですね。

保育園の子どもたちも、少しずつほしざき保育園の生活に慣れて、毎日元気にすごしています。
梅村さんには在園中、父母会活動にたくさんの力を発揮していただきました。文才があり、
いろいろな父母の方たちと輪をつくることのできる梅村さん。

ちょっと若い父母のみなさんの良き先輩として、リーダーシップを取って、父母会活動を活気
づけていただきました。また保育だけでなく、さまざまな活動に日々奔走している職員たちを、
いつもおだやかな口調と、笑顔で励ましていただきました。

名南子どもの家の理事としても尽力いただきました。法人は保育だけでなく、社会福祉全体を
視野に入れ、高齢分野の事業を検討し、たくさんの方たちの支援をいただきディサービス星崎
を開所しました。その際も理事としてほしざき保育園の父母として力を発揮していただきました。

福祉・医療・教育・地域をよりよくする運動を日々の仕事、生活、子育てをしながらコツコツ丁寧につづけていた姿に励まされていた一人です。

私は、梅村さんとは夫の仕事の関係で、時々病院でお会いすることがありました。闘病中でも仕事と治療の両立を望んだ夫の、病室を訪れては
仕事の話をしていていましたね。夫は治療が辛くてしんどそうな時も、仕事の話を知るとなぜか元気づけられていたように見えました。何気なく
仕事の話をしていながら、励ましていただいているんだなと感謝していたんですよ。

これからも名南子どもの家のこと見守ってください。そしてOB会や、みずきちゃん・航太くんの20歳のつどいでおしゃべりしましょうね。

ほしざき保育園 園長 千葉 恵子



梅村さん、21年間お疲れ様です。

梅村さんは知らないと思うけど、ほしぎ保育園で梅村さんを知った日から、梅村さんは私の人生に多大なる影響を与えています！

みいちゃんが弟の誕生を「宝物」と喜んでいた内容の保育雑誌の投稿記事が保育園で紹介されていた日に、息子に「お母さんの宝物」って話しかけたことに始まり、イヤイヤ引き受けた四役だったけど梅村さんが真剣に取り組む姿に影響され、「わたしもがんばろう！」って励まされたり、四役を楽しむことも教えてもらいました。

お花見でおいしいちらし寿司を作ってきてくれて、手抜きすることばかりの自分を反省したりも。保育園の理事も、梅村さんの頼みは断れなくて引き受けたけど、私にとっては貴重な経験で、社会人として少し成長できた気がします。

穏やかな笑顔の裏では、いろいろと苦勞もあったと思うのに、いつも思いやりがあふれる梅村さんのようになりたいと、常に思っていました。保育園の歴史を今の父母に伝えようと、リレートークをお願いしたときも、忙しいのにA4二枚ぎっしりの思いを私たちに発信していただき、読んでいて「じーん！」ときました。ありがとうございました！

きっと、これからもいろいろな人に囲まれて、あたたかい人生をおくられることと思います。3冊目の冊子を楽しみにしています！また、お花見をしましょうね。

中島明美



梅村さんとの出会いは、同じ保育園に子どもを預けている父母としてでした。

もう10年以上前になりますが、今でも覚えているエピソードが二つあります。

ひとつは、まだほとんど梅村さんの事を知らなかった時、毎月引き落とされる保育園の父母会費（保育料？）の計算を梅村さんがされていて、その計算書も梅村さんが作製して、全世帯に配布されているというのを知り、なんて聡明な人なんだろうと驚きました。

その後も長く父母会役員や父母会長をされ、子どもが小学生になってからは学童保育でも、一生懸命活動されていました。体がつらい時もたくさんあったと思うのですが、保育園や学童のために、いつもひたむきな梅村さんの姿を見るたび、凄いなと思うと共に自分も励まされていました。

もうひとつは、母ちゃん会での出来事。子ども連れでお店で母ちゃん会をしたのですが、楽しくて盛り上がりすぎた母ちゃんに「うるさい！他のお客さんに迷惑だから」とびしゃり。梅村さんは穏やかで優しいイメージだったのでその時はちょっとびっくり。後でそのお母ちゃんと梅村さんは仲良しと知り納得しましたが、梅村さんの新たな一面を見た思いでした。

保育園でのお泊り会では、何度も明け方まで飲んでおしゃべりしましたよね。楽しかった。

綺麗で聡明で、何にでも一生懸命な梅村さんは私の憧れです。でも、頑張りすぎて少し心配だった事も…。

今まで頑張ってきた分、少しのんびりしてください。そして、また一緒に飲みましょう。

長田明子





はぐくみ

号外その2

ほしざき保育園父母会
リレートーク第1号
2004年3月

ほしざき保育園父母のみなさん、こんにちは。

私は、今年中学に入学するみずきと、小学2年に進級する航太と、8年間ほしざき保育園に通った父母の梅村紅美子といます。

昨年まで一緒に父母会四役をやった方から、ほしざきの父母会活動を振り返って文章を書いてほしいと頼まれて、ペンを取りました。

なぜ私なのかと遠慮したい気持ちもありましたが、ほしざき保育園と父母会活動に育ててもらった父母の1人として、少しでも役に立てればと思って書かせてもらうことにしました。

みよし保育園で3年間父母会活動に関わってから、ほしざき保育園にじ組さんに入園した時には、その規模の大きさに戸惑いを感じたのを覚えています。

その当時は、私と同じ南生協病院の職員の数も多かったこともあって、顔見知りの方が多かったので、いろいろと教えてもらえたこともあって、(子どもの方が慣れは早かったけれど)、夏まつり・運動会・署名・年末物産と行事が進むごとにだんだんと馴染んでいきました。

でも、父母会活動の意味を本当に考えるようになったのは、四役を引き受けてからだと思います。

それは、私自身が子育てにつまづいた時期でもあり、またほしざき保育園の父母の層が変わってきた過渡期でもあったからかもしれません。



私の子育ての大きなつまづきに気づいたのは、息子航太が生まれてからでした。1ヶ月という短い育児が終わって、仕事に戻ってみると、夫が毎日深夜まで仕事でほとんど1人での子育ては想像以上に大変でした。手のかかる、そして無垢でかわいい航太にばかり気がいって、みずきのことを疎ましくさえ感じてしまう自分自身に、自己嫌悪の毎日でした。「どうしてお母さんのいうことがわからないの!」とみずきにあたっては、裏顔に「ごめんね」と謝るのですが、次の日にはまたイライラして叱りつけてしまう。みずきの話しが聞いてやれなくな

っていました。そのうちに、みずきは爪噛みがひどくなり、逆むけからはい歯が入って爪の根元が化膿するほどになり、その指を見てから私はカウンセラーに通うようになりました。自分だけがおかしいんじゃないかと真剣に悩んでいました。

そのどん底から救ってくれたのは、カウンセラーの先生はもちろんですが、ほしざき保育園の先生の助けはとて大きく、そして何より同じ父母の子育ての姿でした。「子どもに当たることなんかしょっちゅうよ!アハ!」と笑い飛ばす先輩、「わかるわかる、そうだよ」と頷いてくれるお母さんたち、子連れで夜遅くまでの四役会に参加しながらも、子どもたちのためにと智恵を出し合う四役の仲間たちに、本当に励まされたのです。

子育ては一人きりでしているんじゃない。私を助けてくれる人がたくさんいる。そう思うと、時には子どもに八つ当たりする事があっても、「ごめんね、今日はこんな事があってイライラして…」と話しができるように少しずつなりました。そして今、12才になったみずきは私のことを「大好き!」と喋りかけています。



核家族化と、地域との関係が薄れ、子育ては孤独になっているのではないかと思います。ほしざき保育園が、給食活動を経験している南生協の職員の多かった時代から、地域に開かれた保育園として変化した90年代後半頃になって、父母会でも「父母の要求も変化してきているのではないか?」と議論がされるようになりました。



その一つの象徴が、「おばけ屋敷」です。夏まつりの時に園の店とは別に準備をお父さんたちが中心になって進め、1993年から3年間、園の屋上でおばけ屋敷は開かれ、子どもたちには好評だったそうです。(実際には見た事がない)1998年には、十数年たったほしざきとお別れ前にもう1度やりたいというお父さんの熱意で復活し、当日は280人もの大入りで大盛況でした。でも、それ以降、おばけ屋敷は実現していません。

また、90年代前半には盛んだったサークル活動(釣りの「ダボハゼの会」、人形劇を観る「おやこ劇場の会」など)も活動しなくなりました。

個人的に仲の良い同志良事をすることはあっても、言いだしっぺになって、みんなに声をかけ、組織する人がいなくなった(?)のです。

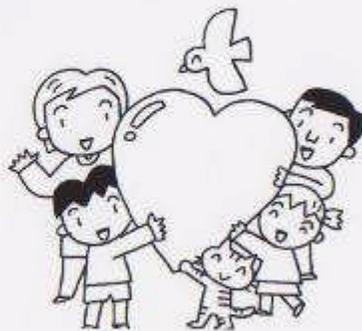
四役の議論の中でも、大勢を動員するのではなく、小人数でもいい、小さな要求を実現する父母会活動でもいいんじゃないかと、お花見・かぶと虫取りなど、こじんまりとした活動もするように変化したように思います。

でも、私は自分の経験からも決してお母さんお父さんは同じ子育ての語ができる場を求めていないわけではなく、その要求は昔よりもむしろ強いのではないかと思います。そして、それは子どもたちにとってとても必要なことだと思うのです。

私が父母会長をしていた時からだったと思うのですが、父母会総会の終わりに全員が輪になってクラスごとに順番に立って自己紹介をするのを恒例にしてみました。もちろん初めて顔を合わせる人も、顔は見たことあるけど名前を知らない人もいます。でも、ひとことずつの自己紹介でも出会いになります。「初めて入園しました」「他園に通っていましたがほしざきが良いと聞いて転園しました」「3人の母です」「十数年通い今年最後です」いろんな人がいます。でも、みんな子どもを愛しています。子どものために何ができるか考えています。その父母が手をつなぐのが父母会活動だと私は実感してきました。父母、そして保育者が手をとりあってできる大きな輪の中で子育てをしたいと思います。

経験のない組織活動は時に重荷かもしれません。そんな人も参加しやすいようにと四役事務局の時に『父母会活動のてびき』も作りました。でも、マニュアルに縛られることなく、自由な発想で新しい父母会活動を作って行ってもらえればいいと思います。

こうして父母会の歴史(は大きいですね)を振り返って、昔のダイナミックな父母会活動を知らない世代に知ってもらえるのはいい機会だと思うので、私よりも前の先輩方にこのリレートークをつないでいってほしいと思います。



梅村さんとは、子育てと仕事の両立の11年間、ほし
ぎ保育園で一緒にがんばってきた仲間です。

私の保育園時代の後半は、離婚という困難で大変でし
た。そんな時、梅村さんの存在は大きかったです。

ゆっくり語り合う機会は少なかったけど、梅村家での
“焼肉パーティー”をしたことを懐かしく思い出します。

私は、南生協の職員の人に保育園で会って、笑顔を
交わすだけで“元気”をもらえるような気がしていました。

南生協の中で、患者様・地域との関わりを大切に働き続けてきたことを誇
りに、まずは、身体を治すことに専念してください。まだまだ、40歳と少
しの私たちです。これからの人生、「山あり、谷あり」いろんなことがありま
すが、梅村さんらしさを大切に、ぼちぼち歩いていきましょう。私も背伸び
をせず、ゆっくり子どもたちと一緒に頑張ります。

いつまでも友人として、これから食事や映画などで交流していきましょう。
思春期の子育ての相談相手としても仲良くしてください。

みなみ訪問看護ステーション 菊池悦子



↑我が家での焼肉パーティー

一番左がみずきと同年の菊池家長女みゆきちゃん

梅村さんと出会って

初めて梅村さんに会ったのは、13・4年ほど前の僕がまだ
まだ初々しい(?)新入社員で、先輩に同行して挨拶したときで
した。(あっ、当時は医療機器の営業をしていて得意先としての
訪問でした)

つつい長居をしてしまう居心地の良い庶務課で、いつもに
こにこの笑顔だったのを覚えています。花見だ、歓迎会だ、
忘年会だ、ボーリングだ、とよく飲んで歌っていました。(仕
事がらみの話は思い出せない・・・)梅村さんが、庶務を離れ
てからも最低でも年1回ぐらいいは飲み会をしていたと思いま
す。これからも、どこかで必ず飲み会の席には同席しているはず
です。次回はどこでやりましょう??ではでは、谷古宇でした。

ライフネットみなみ 谷古宇 忠士



↑谷古宇さんと
←庶務課の花見会で

子育て応援団の両親と祖母に感謝！



子どもたちが小さい頃は、両方の両親に本当によく助けてもらいました。

夫はいつも休日はほとんど不在だったので、私が休日にも仕事が入ると、子どもたちをよく預かってもらいました。公園に連れて行ってもらったり、地域のお祭りにも参加させてもらったり、親ではさせてやれない体験をいろいろとさせてもらいました。なによりも、愛情たっぷりに見守り続けてくれたことに、心から感謝しています。

なかなか親孝行ができなくて申し訳ないですが、親孝行できるようになるまで、元気で待っていてくださいね。

それから、おばあちゃん、いつも無農薬の野菜を送ってくれたね。ありがとう！

89年に名古屋であった日本母親大会には親子三代で参加して『グラフこんにちは』に載ったね。

93歳になった今も、謙虚で感謝を忘れないおばあちゃん、いつも心配してくれてありがとう！今年19年ぶりにまた愛知で日本母親大会があるんだよ。そこに今度は「親子4代」で参加できるとうれしいです。体に気をつけて、長生きしてね。



89年開かれた日本母親大会に「親子3代で参加！」と『グラフこんにちは』に載った写真。みんな、若い！



↑93歳のおばあちゃんリハビリ頑張ってます！

→十四山のお祭りにばあちゃんに抱かれて参加！



21年間、子育てしながら、専従者の夫を支え、仕事にも全力を注いできた紅美ちゃん。本当に、お疲れさまでした。

人生80年、今しばらくは、身体と心をゆっくり休ませてあげてください。必ずよくなると、私たちは信じています。

父も母も、山あり谷ありの人生を、忙しく走り続けてきました。年を重ねて、頭・足腰が弱くなりましたが、できる限りあなたたちの力になっていきたいと思っています。

いつも温かく見守ってくれている仲間や、私たち家族がいることを忘れないでね。

父 母

医療宣言づくりと民医連総会

1999年10月、全日本民医連の提起を受けて、南生協病院でも「医療宣言」を作ることになりました。

上司から「これまでつちかってきた歴史に基づいて理念を再確認し、厳しい情勢に『凜』として立ち向かう力が必要。今後何を目標にしていくのかを『宣言』としてまとめたい」という依頼を受けた患者代表の足立くみ枝さんと、院長・事務長・医師・看護課長と事務局の私という構成で医療宣言作成委員会は、議論をしました。その上で「それぞれが自分なりの医療宣言案を持ち寄ろう！」ということになりました。

当時は、まだ他院の医療宣言情報もない状況で、何日も何日もずっと宣言のことばかり考えていました。ある日お風呂の中で、ふっと「ともにあゆむ」という言葉がうかんできたのです。

「いつでもだれでも、そらでくちずさめるような医療宣言にしたい!」と思っていた私は、「ともにあゆむ医療」という文字を頭にした文章を宣言として提案しました。そして、それがほぼそのまま南生協病院の医療宣言として採択されました。

2000年3月、全日本民医連総会の分散会で、私の発言を聞いた総会事務局から言われ、最終日の全体会で発表しました。

その後出された全日本民医連の医療宣言にも「ともにあゆむ」の言葉は採用されました。

一緒に医療宣言を作った足立さんと、医学生が集まりに招かれて、大勢の医学生の前で二人で宣言に込めた思いを語ったことは、今も忘れられない思い出です。

でも、南生協病院は、「も」の字で始まる「もらいませぬ! 差額ベッド代やつけどどけ」という宣言から逸脱するがために、わずか7年で変えられてしまいました。

30年の歴史を引き継ぎ、この先もずっと原点を忘れずにいつまでも変わらず伝えられる医療宣言作りをめざしたはずなのに、「時代が変わった」というのが変更理由だそうです。

いま一度、原点に立ち返ってほしいとの思いが、「医療宣言」づくりを思い出して、いっそう強くなりました。



「南生協病院医療宣言」

前文

南生協病院は、医療総合センターの発展活動から生まれ、地域医療の発展活動の中心として、1978年に誕生しました。

地域のみなさんが組合員としての主体をもち、職員とみなさん、地域のみなさんと医療を結び、総合医療機関として発展して参りました。

私たちは、南生協病院が地域の組合員が主体・運営・利用する医療主体の病院であるという精神を継承し、保健・医療・福祉のネットワークの構築として、医療にかかわるみなさんと共に取り組んで参ります。

また、みなさんそれぞれ、各自が主体的人権を尊重し、早期で平等な生活が送れるよう、早期・民主主義・人間性豊かな医療の発展を参ります。

とつげんの病児・けがにも安心の救急医療」

= 24時間、365日の救急体制をとっています

もらいませぬ差額ベッド代やつけどどけ」

= 差額ベッド代やつけどどけの金額なく、治療に専念できます

こやかでおもいやりある接遇を」

= 人の健康と尊重する接遇を心がけます

あすのよい医療を実現します」

* 医療従事者の協力と対応し、新しい医療が総合的に医療を提供します。
また、納得のできる医療の実現に向けて、患者・組合員との協力で医療の質の向上に取り組めます

ゆめをもち、やりがいもてる職場と人を育てます」

* 患者・組合員の満足のための場を自らとづくり
* 相互協力と協力で健康の力を発揮できる職場づくり
* あすのよい医療を支える医療の質と働きに取り組めます

むずみずみ保健・医療と福祉のネットワーク」

* 地域の健康センターや保健活動と連携し、保健のネットワーク
* 南生協病院の診療科や診療科と連携し、医療のネットワーク
* 市民の病院や在宅支援センターと連携し、福祉のネットワーク

医療保険制度の後退を許さず、社会保障平和を守る運動に」

= 医療を支える権利を守り、いのちとくらしを守る運動を参ります
と取り組めます

「患者は患者が主人公 生協は組合員が主人公」

* 「患者の権利実現」を実現し、質の向上に取り組めます

1999. 12. 5 (2000. 2. 29-初版)

総合病院 南生協病院

いきなり事務長室課長へ



2000年4月、私は情報サービス課庶務系の主任になりました。

年齢からいけば、とっくになってもおかしくない年でしたが、子宮炎症も頸肩腕障害も根治するものではないし、夫が毎日深夜帰宅で、休日もほとんどない状況だったので、話が来なかったのだと思います。

「やむを得ない」という気持ちで受けたとたん、不眠が始まりました。

当時、MBO（目標による管理）が導入されたところで、事務部門の業務再編もあいまって、ストレスがかかったためだと思います。

2000年6月、事務長室に呼び出され、「事務長室課長」になるように言われました。専務の突然の交替による玉突き人事が私のところにまで及んだのです。

今まで、事務長・事務次長の二人だった事務長室を、勤続20年一度も病院勤務経験のない人を事務長に据え、次長は廃止し、新たに事務長室課長という新たなポストを作って、病院リニューアル実施設計開始目前のときに「あなたならできる！」と言われても、私にはどう考えても無理な相談としか思えませんでした。

体調も悪化していたし、家族の援助も見込めない状況で、「とてもできません！」と断固拒否しました。でも、私には選択の余地すら与えられてはいませんでした。

気の毒な事務長は8月にはうつ病になりました。私も、頸肩腕障害も、子宮の炎症も悪化して、仕事をしていても暑くもないのに手に汗をかい取り、手足が冷えて仕方がなかったり、食欲もなくなり、家に帰るとぐっつりの生活でした。

でも、待たなしのリニューアルの実実施設計を進める人はおらず、各部署との打ち合わせ会議が毎日何ラウンドもつづき、昼ごはんすら食べる暇がない状況が続きました。

秋には、子宮炎で入院になったのに、それでも代わりの人がいないから、主治医に「午前午後2時間ずつだけだよ！」と制限付きで、病室から会議に通っているような状態でした。

設計が具体的になればなるほど、「無謀」としか言いようのない複雑怪奇な工事工程で、施工業者すら「これが無事にできたら『プロジェクトX』にでられる！」というほどの難工事になることがわかってきました。

何度も交渉して、やっと11月に事務次長が配属されましたが、現場との調整は結局私が引き続き担当することになり、体調はますます悪化していきました。

2001年春、事務長が病気のために交代になりました。そして、私もうつ病になり、沈んでいくような気持ちを抱えながら働き続けました。

2000.9.17 4
一家パラパラ
不安な一夜を
名古屋市 梅村和美子
(病院事務 36歳)
「災いは忘れたころにやってくる」というけれど、十一日のおの家の雨をたれがいつたいた想でございませう。
あの日、私は勤めている病院のすぐとなりのマンション一階にある会議室で午後からの会議をしていました。あまりに強い雨音に窓からのぞくと、既に道路は川状態。「これは会議どころじゃない」と早めに切り上げ、ドアを開けたらいきなり床下浸水でした。
路上では車が次々エンジンが浸水して立ち止ま。いつやとも知れぬ激しい雨と、どんだんあがる水柱に身動きがとれず、結局保育園で下の子どもを、同じマンションの人の家で上の子どもを「腕置」してもらい、大も私ら別々の階層で、一家四人パラパラで不安な夜を過ごしました。
平日病院自体は何ともなかったのですが、カルテなどの倉庫や本館のあるマンションの一階はどっ、公りつかわい、後付けに追われていきます。しかし、病院周辺の地域はもっと深刻なもので、職員を組織して老人世帯の後付けの支援にいつていきます。また水につかたままの地域もあり、普通の生活に戻るには時間がかかりそうです。
大蔵や社口などを加盟している民医連や医療生協の組織からいろいろ支援の申し出があります。組合員、患者と一とちにあゆむ医療をめざす病院として、地域へ足ま伸ばしてがんばります。



21世紀へ夢ひろげ組合員みんなで作る

南生協病院リニューアル運動

2001. 4. 20 改定
リニューアル推進委員会

そもそも“リニューアル推進運動”ってなに？

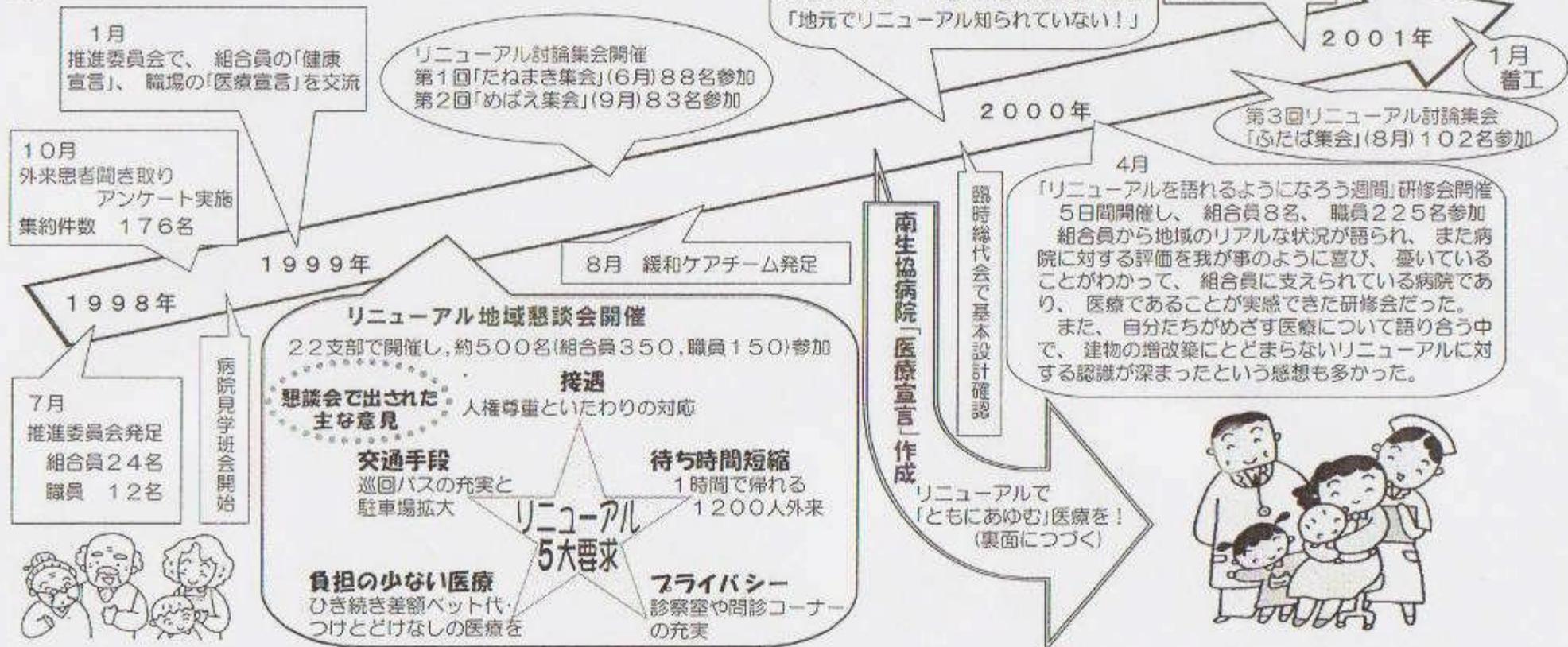
病院の建物だけでなく保健医療活動も見直し、建物の増改築と同時に、保健医療の内容を改善していく活動を、組合員・職員がともにすすめていこうという取り組みです。

なぜ今リニューアルなのか？

- ① 厳しい情勢に対応—世直し運動の輪を地域・職場にひろげる病院づくり
- ② よりかかりやすい病院づくり—保健医療活動の更なる前進と改善
- ③ 老朽化した施設の改修—病院開設からまもなく25年療養環境の改善と施設設備の更新が必要

組合員・職員がいっしょにとりくんでいます

毎月1回のリニューアル推進委員会には地域・患者会の代表と職員が参加し、ボランティア・外部環境・案内色彩・緩和ケアの各チームにわかれて取り組みをすすめています。



総合病院 南生協病院 リニューアル（増改築）工事年表

2002. 1. 9

☆着工 2001年1月12日

★竣工 2003年7月31日予定

節目工程	2002年												2003年							
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	
節目工程						 <p>新築棟完成、緩和ケアオープン 6月から南中学校側に正面玄関が移りました</p>					 <p>喫茶コーナーイメージ図</p>								 <p>リニューアル完成イメージ図</p>	
新築棟工事																				
既設棟改修工事																				
<p>受付・会計・医療介護相談室 薬局・インシールーム・ あすなろ学級オープン</p> <p>新築棟を仮設利用しながら 既設棟外来部分を順次改修</p> <p>3・4階病棟順次改修</p> <p>3A・4A病棟オープン</p> <p>3B・4B病棟・入院病歴室・ 言語・作業療法室オープン</p> <p>内科オープン</p> <p>病理・剖検室オープン</p> <p>救急・理学療法室・皮膚科・泌尿器科・ 階病歴・脳外科・放射線科のAオープン</p> <p>喫茶・組合員コーナーオープン</p> <p>健診科オープン</p> <p>救急 中央処置・一般細菌検査・耳鼻科 眼科 精神科・産婦人科・透析オープン</p> <p>当直室・売店・生理検査・内視鏡室オープン</p>																				
<p>10月にリニューアルオープン</p> <p>耳鼻科→B棟2階 眼科→B棟2階 精神科・臨床心理室→B棟2階 産婦人科→A棟2階 透析室→B棟2階で10床に拡大 生理検査・内視鏡室→B棟2階 1階検査室→A棟1階 売店→B棟2階(8月26日～) 中央処置室→A棟1階旧玄関跡</p>																				

「組合員ルームオープンまつり」のご案内

組合員ルーム・喫茶コーナー・健診科のリニューアルオープンを祝ってのおまつりにぜひお出かけください!

とき/11月2日(土)14時~17時 ところ/南生協病院1・2階

「プロジェクトX」並みの難工事を乗り越えて

2001年1月に始まった工事は、想像を遥かに超えるすさまじいものでした。5階には入院患者さんがいる状態で6階を削り取る。壁一枚隔てた隣りの部分を解体する。外来も日替わりで工事をするために、たくさんのボランティアさんに案内・誘導の協力をしてもらいました。天井をはがして空調設備も取り替えるために、あちこちで予想以上に埃が発生し、ビニールのトンネルのような廊下や野戦病院のような光景、診療にも支障が出そうなくらいのすさまじい騒音に、訪れる患者さんたちもびっくり。苦情の対応にも追われる毎日でした。

でも、休日の大引越しや、夕食から朝食準備までの間の徹夜の厨房引越しなど、次々とくる困難を職員も組合員さんも本当に底力を発揮したからこそ、乗り越えられたと思います。患者様へは、工事工程と予想される障害について逐次ご案内のチラシを作って配布しました。もちろん、たくさんのお怒り・苦情も受けましたが、「がんばってね」「新しくなるのが楽しみだね」と言ってくれ方もみえて、本当に励まされました。

2002年5月、事務長から①業者対応が甘い、不適切、②健康の自己管理が悪いの2点を理由に、庶務課スタッフへ降格を言い渡されました。

「じゃあ、なせもっと早く辞めさせてくれなかったのか！」と、ここまで身体も心も痛めながらもやってきたことへの遅すぎる評価に、悔しくて悔しくて涙が止まりませんでした。抗議文を書いて提出しましたが、これ以上事務長室にいる必要がなくなったことだけが幸いでした。

でも、庶務課に異動した後も、実質的にリニューアルの事務局に変わりなく、引越し・家具選択・案内表示・カーテン・電話移設など、忙しい毎日に大きな変化はありませんでした。

こんな裏話は別にして、3年間に渡るつぎはぎだらけで引越しに次ぐ引越しの上、難工事は一日の休診をすることなく、無事に終わりました。

その間の患者様の忍耐、職員の奮闘、組合員さんの献身的なボランティアには、本当に言葉では言い尽くせないものがあります。本当に、お疲れさまでした。

でも、それからわずか3年後に「新築移転」が決まろうとは、誰も予想できませんでした。

リニューアル当初の500名が参加して開かれた、地域懇談会で出された「リニューアル5大要求」①接遇、②交通手段、③負担の少ない医療、④プライバシー、⑤待ち時間短縮は、今度の新築移転で解決されるのでしょうか？

3月の全日本民医連総会では、全国から「今こそ人権を貫く医療を！」「『差額徴収』はすべきでない！」という発言が寄せられたのに、その総会方針に「反対票」を投じたのは、南医療生協の代議員5名だけだったと聞きました。

それなのに、法人報「みなみる」では、まるで全国の参加者から南医療生協の進もうとしている道が支持されているかのような報告文が堂々と掲載されていました。

真実を隠してまで、なぜ「新築移転」推し進めようとするのか？生協の将来が心配でなりません。

NSTマークデザインに採用！

事務長室時代、いろんなことにチャレンジしましたが、南生協のNST(栄養サポートチーム)マークデザインに応募したところ、採用となりました！

NSTの文字で、「たくさん食べられるように！」の願いを込めて、どうをデザインしました。手書きのものを学童指導員の漫画家ルパンがグラフィック化してくれました。ちなみに賞金は3千円でした。



ボランティア ありがとうニュース

2002.6.8 リニューアル推進委員会

ぴかぴかの病棟に感動・感激！

引越し第2弾初日の6/8も20名の組合員ボランティアさんが引越しに参加してもらいました。本当に本当にありがとうございます。

午前中は2A病棟が新築棟に病室移転。「うわーすっごいきれい！」と患者さまからも感嘆の声が。

やっぱり4人部屋はゆとり・きれい・明るい。妊婦さんたちにも「これなら母児同室もOKだね」と好評です。

2A病棟はこれからも大変な工事がまっていますが、きれいに快適に生まれ変わるための試練をみんなで乗り越えましょう。



4人部屋でニコニコの入院患者さま



新しい玄関ホールで 「はいチーズ！」

午後のボランティアさんには産婦人科・内視鏡室の移転や、9日に引越し予定の職員のロッカー清掃など大活躍していただきました。

暑い中、汗だくでがんばってもらったみなさん、本当におつかれさまでした。

移転跡の解体開始

案内ボランティアさんも大活躍！

6/8(土)～10日(月)は1階部分、13日(木)～16日は2階部分で、通路を閉鎖して天井はがしの工事を行います。

ただでさえ新しい建物に戸惑って見える患者さまに、部分的に通れない廊下があるために、迂回路をご案内するボランティアさんは絶対必要です。

今日もほこりの中、案内に立っていただいたみなさん、本当にありがとう。

これからもボランティアさんあつての南生協病院です。(ボランティアさんは太陽です) ちょっとした時間でもOKです。ボランティアにどんどん来て下さい！



ボランティア ありがとうニュース

2002.6.9 リニューアル推進委員会

夜を徹しての厨房移転 お疲れさまでした

引越し第2弾の山場「厨房移転」は、6/8(土)の夕食配膳後に始まりました。

翌日の朝食は、新しい厨房で作って出さないといけないという厳しい条件の中、何日も前から温冷配膳車や下膳車を実際に押しながら院内を回って動作確認したり、新しく買った食器の洗浄をしたりと準備をしてきた甲斐あって、また当日はパートさんも含めて栄養科職員は総出で、他部署からの応援も入って6/9の朝食は無事に患者さまのもとへ運ぶことができました。栄養科のみなさん、ボランティアのみなさん、ほんとうにおつかれさまでした。



念入りに機械を点検する栄養科職員

日曜日もたくさんのボランティアさんありがとう

引越しもいよいよ最終日の6/9は、組合員さん10名職員5名のボランティア参加がありました。

残った引越しは職員更衣室の移動のみなので、引越しは業者にお任せして、ボランティアさんたちには1階中央エレベーター前からC棟エレベーターまでの天井はがしのための通行止めのご案内をお願いしました。



「まずは位置確認をしてからね」



ほこりの中での案内 おつかれさまでした

天井解体作業の近くで、マスクをかけたがらのご案内、本当におつかれさまでした。これに懲りずにまた来て下さいね。

← 旧薬局前 見るも無残な、でも普段見えない病院の裏側が見える貴重な体験かも？

そんな中で、我が家は・・・

毎日仕事で帰りが遅く、休日も疲れてぐったりの日々の中でも、子どもたちは確実に成長していくんですね。

その頃、我が家はご近所さんや学童に支えられて、何とか成り立っていました。

特に、お隣の神谷さんには、子どもたちが家のカギを持ってでるのを忘れたときに、いつも助けてもらっていました。

夏休みに旅行に出かけるときも、ウサギのえさやりだの、庭の草花の水遣りだの、ずうずうしくお願いをしてばかりでした。

めいきん生協の受け取りも長い間お願いしていたし、親が不在の多い我が家にとっては、遠く（遠くもないけど）の親より、隣りの「神谷様」って感じで、本当にお世話になってきました。

長期病欠で孤独な私がぼんやり庭を眺めているときも、「元気?」「調子はどう?」といつも気にかけてもらって、本当にうれしかったです。これからも、いつまでも、仲良しのお隣さんでいてくださいね。また、温泉一緒に入りに行きましょう!

退職されたとお聞きし、とても驚きました。

働くお母さんとして、常に前向きで勉強家。

何事にも真摯に取り組まれる姿勢が素敵だなあと常々思っていました。

忙しい中でも、庭にお花をいっぱい咲かせて、うさぎなどの小動物でにぎやか。

人なつこい笑顔で、楽しい人です。いつも我が家に心を配ってもらう強い味方でもあります。

ご病気になられてからのつらさや悩み、職場復帰への焦りなど、近くで見ただけに、復帰がかなわず、退職に至られたことは残念でなりません。

いまは、ゆっくり身体を休めて回復され、私たちのためにも、ぜひ、また活躍していただけるように願っています。

神谷



フェンスを越えて、神谷さん宅の庭でご夫婦と

2003.9.7日

家族でかいた絵日記が宝物に

八月四日付「読者の広場」に、小学一年の息子「場」の字の練習と、「親子の対話」とをかね、夏休み絵日記を親子でかくという投稿を掲載してもらいました。

あつという間に夏休みは終わってしまいました。が、手元には三十八枚の絵日記と、楽しい思い出がいっぱい残りました。

小一の息子は十一枚、初めは嫌がっていた小六

の娘は十五枚、しるる夫にも三枚描かせ、私が九枚。映画に行ったこと。プールで泳いだこと。花火をしたこと。学園での生活や職場での出来事。長野への旅行にも日記帳を持って行って、馬にえさをやったりと、熱気球に乗ったこと、舞の中の朝のドライブ、昆虫美術館で見たたくさんのお虫のことなども、みんなでかきました。

字を書くのが不慣れた息子には、「今日なにか」から、「ある字が反対」「ほろ思ったこと」もかかれたと、「多少」「いやほど」「強制」にかかせた面もあったし、当初の娘達の字の練習にはそれだけ効果があったかは怪しいですが、家族みんなでかいた絵日記は、この夏、大切な宝物になりました。

名古屋緑区
梅村紅美子 38歳
（病院勤務）



←長野・原村での熱気球体験



2003年2月5日（水曜日） 【読者の声】 (12)

入院費18万円 3割なら大変

名古屋市 梅村紅美子
（病院勤務 38歳）

昨年、子宮摘出手術を受け二十日間の入院で十八万円支払い、医療費の高さを実感しました。でも、入院したのは自分でも、差額ベッド代がいらぬのである、そのありがたさも身にしみました。

先日、うちの病院が一般紙に「差額を取らない病院」として報道されました。それほど差額を取る病院が一般的で、日額数千円から数万円にも上るその負担は患者に重くのしかかっています。

ましてや、本人負担三割が実施されたら、患者の治療を受ける権利すら奪うことになりそうです。病院経営にも大打撃です。

先日、わが家に入った「患者負担三割反対」なご書状がありました。どと書いてありました。いったい誰がそれを進めるのか！ 患者も病院も苦しめる本人負担三割は絶対反対です！

親子の対話 わが家では

字の練習かね 絵日記かいて

名古屋市 梅村紅美子（38歳）

息子の練習もできるよ、毎日休みの親子の対話となればと思います。

共働きで忙しむわが家で、さてこの夏休みに、子どもと対話したい。息子が、この絵日記が、夏休みの親子の対話となればと思います。

小一の娘には、大好きな虫のことでもいい、学童で楽しかったことでもいい、何でも好きなことを書いていいからと始めさせました。小六の娘には、私と交互に描く約束をしました。

夏休み初日は、一緒に映画に行った映画のことで、息子が「ほろ思ったこと」もかかれたと、「多少」「いやほど」「強制」にかかせた面もあったし、当初の娘達の字の練習にはそれだけ効果があったかは怪しいですが、家族みんなでかいた絵日記は、この夏、大切な宝物になりました。

名古屋緑区
梅村紅美子 38歳
（病院勤務）

息子も小学生 学習で新発見

名古屋市 梅村紅美子
（事務 38歳）

今年、息子が小学後に五歳離れた娘の時は、三歳のころから教えもしないのに自分の名前を書き始め、五歳の時は弟にな練習帳をやらせ始めた。毎日「毎日ニマス」八苦しながら、親子でかいた絵日記は、この夏、大切な宝物になりました。

息子の練習もできるよ、毎日休みの親子の対話となればと思います。

共働きで忙しむわが家で、さてこの夏休みに、子どもと対話したい。息子が、この絵日記が、夏休みの親子の対話となればと思います。

小一の娘には、大好きな虫のことでもいい、学童で楽しかったことでもいい、何でも好きなことを書いていいからと始めさせました。小六の娘には、私と交互に描く約束をしました。

夏休み初日は、一緒に映画に行った映画のことで、息子が「ほろ思ったこと」もかかれたと、「多少」「いやほど」「強制」にかかせた面もあったし、当初の娘達の字の練習にはそれだけ効果があったかは怪しいですが、家族みんなでかいた絵日記は、この夏、大切な宝物になりました。

名古屋緑区
梅村紅美子 38歳
（病院勤務）

リニューアル完成！中味はどう変わったかな？

とにかくにも、無事に終わったことが本当にうれしかったです。

自分がデザインしたモニュメントの除幕式のときは、さすがに「終わったぁ」と力が抜けていく感じがしました。

リニューアルでできた増築棟の広いトイレに、庶務課の頃から花を飾るようにしてきました。

「きれいなトイレがいつまでも気持ちよく使ってもらえますように」という気持ちと、「我が家の庭に咲く花を、もっとたくさんの人に見てもらいたいなぁ」という思いから。



清掃業者責任者の宮地さん

すると、私がトイレに花を活着けると、患者さまが「ありがとうね」と声をかけてくださるのです。「きれいだねえ。やっぱり生の花があると、気持ちがなごむねえ」と、毎回いろんな方と話が弾みます。私の趣味で飾らせてもらっているのに、なんだかとてもいい気持ちにさせてもらってきました。

これも、毎日手入れをしていただいたお掃除業者のみなさんのおかげです。ありがとうございました。これからも、受診の時には寄らせてもらいます。よろしくお願いします。



↑モニュメント除幕式。中央が私。



7・8年前かと思いますが、夜偶然、君のお母さんと病院前の道で会い、君が病院に勤務していることを知りました。

お母さんとは、港湾で働いていた頃の知り合いで、誠実で明るい人で、貴女はそのままの血を受け継いだ人だと思いました。

病院リニューアルのときに、一緒に作業する中で知り、またいろいろとアイデアを出し、楽しい時間でした。

病院玄関前のモニュメント等はそのひとつで、思い出がいっぱいです。

いま、不慮の病との闘い、辛いと思いますが、頑張ってください。

私は、国の政策で「後期高齢者」として線引きされ、家族構成からもはずされそうです。貴女は、まだまだこれから、病の克服を最重点に考えて生活し、子どもの成長を見つめて行ってください。

千鳥支部 組合員 服部三樹夫

1階のお手洗いには、いつも生け花が差してあります。季節のお花です。

「病院」というコンクリートの建物内では、季節感を味わうことは「雲の上」のことと諦めざるを得ないのだと、自分で自分に言い聞かせていた事柄でございました。

心身ともに疲れきった私自身にとっては、この1輪に心満たされる思いが湧き出で、「また1日生きてみよう」と思いました。ありがとうございました。

匿名希望の患者様の投書より

子どもたちの思い出

私の仕事につき合わされて、病院での行事などにも参加してきた子どもたちにとっても、リニューアルは思い出深い出来事のひとつのようです。

特に、屋上庭園は、緩和ケアオープンまつりの企画で、大理石を割って、花壇の周りに貼り付けたときに、みずきは石屋のおじさんに教えてもらって、自分の名前を彫っていましたし、家から葡萄の木を1本持ってきて、大きな植木鉢と土も買って、みんなで力を合わせて運んで植えたりしたので、思い出がいっぱいです。



生協病院の屋上
緑区 梅村みずき
ウチのお母さんは南生協病院で働いています。お母さんの仕事で病院へついてゆく時は、いつも屋上を見に行きます。花がいっぱいあってきれいだし、リニューアルの時にみんなではめたタイルなどを見るのはとても楽しいです！

「健康の友」2004年12月号



久しぶりの屋上庭園で

自分たちが貼った大理石をバックに

枯れたと思っていたけど、
ブドウもこんなに成長していました

夏休みには、長野の原村によく行きました。疲れた体と心を自然と、人の温かさが癒してくれました。見ず知らずの人の優しさに触れて、うれしくて涙が出そうな体験もありました。



甘いモロコシ
信州の思い出
名古屋府
梅村紅美子(41歳)
五年ほど前の夏、家族で信州へ旅行しました。山登りをした後、ふたりの小さな体でせうらのぼやりに車を止めて、お昼を食べました。
すると、すぐ横の麥がら出てきたお母さんやんが、お茶の葉と梅干子を見て「畑で、いままで食べたモロコシを、今の頃で食べる食べていきなさい」と優しく声をかけてくださいました。
その場で麦をむいて焼先のかまに火をくべて、トウモロコシをゆでてくだきました。そのトウモロコシの甘かったこと!! 鎌倉のストーパで買ったものとは、比べものにならないくらいおいしかったです。
見ず知らずの私たちに優しく声をかけてくれた温かいお母さんやんの入声、自然の中での味わえないおいしさは今も忘れられません。あの時はあんなにも嬉しかったのでしょっか? 信州は、いつ行っても、ありのままを受け入れてくれる、心の故郷ですが、あの夏の思い出は、私たちにとって忘れられないものです。

2005.12.H

心機一転「地域医療連携室」立ち上げ

リニューアルが終わって、2003年6月「地域医療連携室」を一人で立ち上げるという大きな任務を引き受けました。

今にして思えば、事務長室で押された「降格」という烙印を、払拭したいという思いに駆られていたんだと思います。

当時、一般の大きな病院では診療報酬の後押しもあって、「地域連携」の取り組みが始まっていました。大同病院・中京病院・名古屋記念病院などを事務長とまずは挨拶かねて、どんな取り組みをしているか話を聞きに伺いました。

でも、ちょっと話を聞くだけでは雲をつかむような話で、まずは南生協病院では、紹介率を算定する仕組みづくりからの出発でした。

開業医向けの南生協病院紹介バインダーづくりから始まり、院内の紹介患者様対応ルール作りと徹底、開業医を訪問して「登録医」になってもらう営業活動。どれをとっても、初めて尽くしで、やればやるほど課題の大きさを実感し、押しつぶされそうな気持ちを奮い立たせる毎日でした。

部屋は、相談室の一角に間借りして、おしゃべりする相手がいることは救いでしたが、上司である事務長や院長ともときどき打ち合わせがある程度で、当初あった「連携委員会」もあつという間に立ち消えになりました。

私は、まさに「孤軍奮闘」状態。そんなときにインターネットで山形の鶴岡医療生協の連携室担当の瀬尾さんと知り合うことができました。

彼女が立ち上げた「連携室の給湯室」という連携担当者の情報交換のサイトへの、初めての参加者が私という運命的な出会いでした。

「もっと連携の輪を広げたい」と私は民医連や医療生協などの院所にこのサイトへの参加案内を送り、埼玉、東京、京都、神戸、岡山、広島などあちこちから参加者が増えて、連携担当者にはわからない悩みや相談ができるようになり、私は本当に救われました。

翌年には「実際に会って交流したい！」という願いを、日生協医療部会にいた大学の先輩の力も借りて、初めての「全国連携担当者会議」を医療部会主催で開催することができ、まるでずっと昔からの知り合いとの再会のように、皆さんと深い交流ができました。今もその「連携担当者会議」は引き続き年1回行われていると、先日久しぶりに電話で話した瀬尾さんから聞きました。うれしいことです。

南生協病院内でも、紹介患者様をお迎えの挨拶から、ご案内、帰りの「不都合なことは？」の確認など、どうすれば紹介患者様が満足して帰り、「先生に紹介してもらった生協病院、よかったよ」と開業医さんに伝えていただけるか？そのために、さまざまな取り組みをしました。

開業医訪問も2年間で400件を回りました。それを支えてくれたのは、パートの安田さんでした。

医療の知識がまったくない状態で就職して、いろんな不安がいっぱいある中で、いつも明るくやさしい対応で、患者様を和ませてくれる素敵な人でした。私の愚痴もいっぱい聞いてもらい、私が安心して、営業活動に出られるようになったのも、彼女がいてくれたおかげです。

開業医訪問も、はじめのうちは「生協病院ってどこにあるの?」「えっ、組合員じゃないとかかれないのかと思ってたよ」など、いかに開業医の先生たちに南生協が知られていないかを実感する日々でした。

そんな中でも、生協と同じ「地域に根ざした医療」を志して奮闘してみえる先生たちとの出会いもたくさんありました。



笑顔のステキな安田さん

中でも、私の心に残っているのは、東海市名和の「村田メディカルクリニック」の村田洋二先生との出会いでした。

お父様の後を継がれるために地元に戻って見えただけのころで、とても温和な第一印象でした。

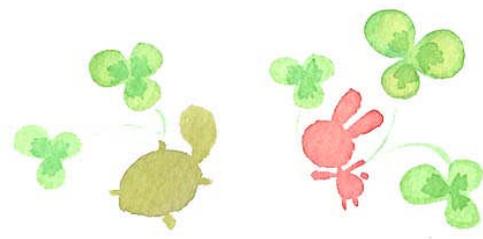
でも、「患者さんが望むのであれば、どこにだって、僕は紹介したいと思っています」「何よりも患者さんの気持ちに寄り添うことを大切にしたい」という言葉には、強い信念を感じました。

当時はまだ、東海市の医師会も閉鎖的で、「東海市の救急隊は千鳥橋を越えられない」という話が組合員さんたちの中では言われている頃でした。その医師会から理事を頼まれた先生が「患者さんの望み」を一番に考えるといわれるには、決意が必要だと思ったからです。

思ったとおり、先生はとてもすばらしい先生で、紹介していただいた患者様を通してのやりとりも、決め細やかな配慮を感じることが多く、そのキャッチボールがもっと広くほかの開業医の先生方ともできるようにしたいというのが私の目標でもありました。

でも、がんばればがんばるほど、上からの期待は高くなり、私の体調はどんどん悪化する一方で、そのギャップから私はまた長期の病休になってしまいました。安田さんには、心細い思いとしんどい目にあわせてしまうことになり、本当に申し訳なかったです。

木村さんに引き継いでもらって、ホッと安心はしましたが、病院の目標（看板）だけが高々と掲げられていても、実際に開業医との連携に積極的に関わっていく支援体制は、どんどん薄くなる一方ではないかと、私は危惧しています。



梅村紅美子さん

私が、梅村さんにお会いしたのは、病気の父のクリニックを継承するために、東京から戻ってきたばかりの頃でした。急なことでしたので、何事も模索の中、生協病院にも通院されていた患者さんが多くて、当時、連携室で働いておられた梅村さんは、患者さんを大切にされた視点で、熱心にお仕事をされていて、いろいろなことをご相談させていただいたり、患者さんのことをご無理をお願いしたこともありました。

現代の医療の世界は、あらゆる面で厳しくなっており、いろいろな医療機関との連携が大切なことと、

私は考えています。

そんな思いの中、梅村さんとの出会いは、現在の患者さんとの信頼関係の礎になっていると思っています。

村田メディカルクリニック 村田洋二



地域医療連携室を開設して半年の経験から

医療活動
シリーズ
56



南医療生協
総合病院南生協病院
地域医療連携室

梅村紅美子
うめむら くみこ

◇◇◇◇◇
急性期入院加算
取得めざして

南生協病院は長期計画で、地域急性期病院として、急性期入院加算取得をめざすことを決め、昨年六月に地域医療連携室を常勤二名体制で立ち上げました。それまでは、他部所が兼任し、名古屋市医師会の病診連携システムの登録医も六十二件でした。

◇◇◇◇◇
開設後の開業医訪問
で登録医1・5倍に

私が、地域医療連携室担当になってから、まずはじめにやったことは、「スタートダッシュ訪問行動」。すでに登録していただいてる登録医、関連病院・施設、そして新たな登録医開拓のために紹介のある開業医を、一カ月半で百件を院長・副院長・事務長はじめ幹部医師十人とも一緒に訪問しました。

「南生協病院もいよいよ地域医療連携に本格的に乗り出してきた」という決意表明を地域にすること、院内の幹部の中に病診連携を意識付けることが目的でした。それは、効を奏して、開業医さんと幹部医師との顔つきにもなり、一気に

登録医一・五倍にも増えました。

◇◇◇◇◇
紹介患者受け入れ
ルールを徹底して

次の仕事は院内の紹介患者様受け入れルールの整備と職員への啓蒙活動です。

紹介状を持って来院された患者様がスムーズに受診され、満足して帰っていただけるよう、受付されたら、まず私が診療現場までご案内し、診察もカルテが来次第、優先的に回し、その後紹介患者様として職員が配慮するための目印としてクリーンのファイルを会計まで持って回っていたり、よくようになりました。それによって、紹介患者様アンケートは新患アンケートよりも満足度の高い結果が出ています。紹介患者様のカルテには、金色のテープを貼って、開業医さんへの返書などの配慮をするよう、各職

責者会議やニュースで徹底しました。

◇◇◇◇◇
医師会役員を招き
学習会や施設見学

九月には、南区医師会副会長を講師に招き、「開業医が紹介したい病院」について率直なご意見を聞ける学習会を開きました。

十月には、病診連携運営協議会に南区・緑区の医師会長・副会長に参加していただき、その後の緩和ケアの学習会や病棟見学会も、開業医の先生方とのコミュニケーションの良い機会になりました。その中で、医療生協は法人内完結というイメージがあるという意見が出されました。やはり広報も大事と実感しました。

◇◇◇◇◇
開業医さん向けの
パンフレット作成

今までは、南生協病院の医療をPRする物がなかったのですが、各診療科の医師に開業医向けに医療内容の紹介文を書いてもらい、医師の写真、紹介患者様の受け入れシステムや紹介検査内容などと一緒に合わせて、一冊のパンフレットにまとめました。

冊のパンフレットにまとめました。

今年になって、このパンフレットを持って緑区・東海市・大府市を二十件回って、新たに二十件の登録医を獲得し、年度目標を突破、登録医は百二十三件になりました。

紹介患者様の情報交換の他に、病院見学会のお誘い、学習会の講師依頼、南医療生協の機関紙「健康の友」への記事の原稿依頼など、開業医とのコミュニケーションを図ることで、開業医さんにとって気軽に相談できる窓口になれるよう努力しています。

◇◇◇◇◇
法人内診療所除き
紹介率15%めざす

南医療生協内の診療所が紹介率に含まれない厳しい条件の中ですが、紹介率十五%の今年度目標達成をめざして、開業医さんと、そして職員と連携を強めて頑張ります。

坂本さん家では今!

Part101 By Saka.



作・坂本 正行



私が梅村さんと一緒に仕事をしたのは、私が相談室、梅村さんが連携室の時、同じ狭い部屋で働いた時だけだったんですね。ちょっと意外！こんなに仲良くしてくださってありがとうございます。気配り上手な梅村さんと同じ部屋で働いていた

時、本当に楽しかったです。ブーブー愚痴言って、グラグラ笑って。

あの狭い部屋の環境は劣悪でした。そんなくらしい部屋の中、梅村さんはバリバリと音が聞こえるくらいにエネルギーに働いていましたね。シルバーっぽい制服を着ているだけなのに、シュッとしたパンツスーツを着こなしているように見えていたのは私だけではなかったんですね。患者さんからも「あの人がっこいい！」って言われていましたもんね。

当時の連携室の仕事は、無から生み出すような仕事で本当に大変だったと思います。それでもたまにしか嫌な顔をせずに働いていましたね。開業医の医師にちゃんと顔を覚えてもらっていて、すごいなあと思ったことを覚えています。

でも、本当に印象深いのは、トイレに飾ってくれていた花ですね。星崎に異動されてからも、「今日は梅村さん来たんだ」と、お掃除の人にもすぐ知られていましたよ。患者さんも多くの方がうれしそうに飾られた花を見ていました。何度も「きれいですね」と患者さんと話して花が咲いたことがありました。私に咲かせられるのはそんな花くらいですね。

南部美幸

(民医連の) 医療の現場でありながら、病気を理解し働き続けることを支えることができなくて本当にとっても残念です。

私が梅村さんに初めてお会いしたのは、確か薬剤師の高木さんと同期で入社したころと覚えています。若いけれどご自分の基盤をきちんと持った方だなあ(私と同じ側の人と直感した)のが第一印象です。

どんな業務に就かれても豊かな発想で着々と進めていく力や、地域医療科で開業医の方々を訪問し理解協力を求め南生協医療連携の先駆者としての活動などいつも感心していました。

市民、国民を主人公に世の中を変えたい一心の選挙では板津先生と最後の夜ぎりぎりまで一緒に宣伝カーに乗って手振りをしたことや労組大会で発言されたことを思い出しながら、どんなときでも自分の考えをきちんと伝えることは大変なことだけど、とても大切なことだなと感じているこの頃です。

仲間が職場にいなくなるのは本当に淋しいかぎりですが、これからも機会あることによろしくね。



長谷川淳子



平和を守りたい!

この頃から、「憲法改悪」の動きが強まってきました。

著名人の呼びかけで始まった「9条の会」が全国各地で作られていて、愛知での「9条の会」立ち上げの集会には南生協からみんなと一緒に参加しました。

「南生協病院でも『9条の会』を作りたい!」そんな願いが集まって、病院の平和委員会との共催で院内で集会を開いたり、「I LOVE PEACE」のロゴ入りのボールペンや9条バッジ、パンフレットなどの普及も、木村さんや小川さんたちと一緒にしましたね。



人間の鎖で小牧基地を包囲! 「イラク派兵反対1・17県民集会」に組合員参加

南医療生協 (愛知)

社保平和活動委員会は、航空自衛隊小牧基地がある地元愛知から、全国の仲間と連携しようと位置づけ、組合員、職員あわせて21人が参加。この日は、愛知でも珍しく早朝からの朝日やまめ祭りでの開催。しかも前日には、陸上自衛隊の先遣隊が派兵された直後の集会には、他県からの参加も合わせ1000人で会場が増えました。基地正面までのデモ行進後は、1500人の人間の鎖で基地を包囲し、「米兵占領阻止、改憲反対!」など、平和を願うシュプレヒコールが基地内へこだましました。

ちひろの絵と
平和への思い

名古屋市
梅村紅美子 (38歳)
娘の小学校卒業祝い、やほかし、筆づかいが感
に、札幌の妹のデモへ「一枚一枚、」
飛行機に乗せて一人旅の絵に込められた、ちひろ
立たせました。届けたるの思いが伝わってる

姉の、デパートの美術部
で画集中の、いわさき
「一番うれしかったの
は、年末に「一九四六年
二十七歳、日本共産党
入信」と書いてあったこ
とです。まわりの人たち
に話をさせて貰えたかっ
たよ!」

「戦火のなかの子ども
たち」についての絵本
さんと黒柳徹子さんの
対談番組のビデオ上映コ
ーナもありません。ち
ひろが戦火をくぐった自
分の体験とわが子の絵、
ベトナム戦争下で後に包
まれる子どもたちを重
ね合わせながら描いた
ことも語られていまし
た。

大好きなちひろの作品を
堪能した喜びと、ちひろ
の絵が今も強く映えつづ
ける平和な世界に思いを
はせながら、ランチを食
べました。そんな時、
「今札幌についたよ」と
娘から電話がかかってき
ました。



被爆者の体験
若い人たちに
名古屋市
梅村紅美子 (40歳)
元日付「青年が大活躍
れば!」

2005.1.12 H

「原爆証認定集団訴訟」
の記事を読み、粘り強い
活動で原告団の方々を支
える青年たちの活動に感
動しました。

被爆から六十年。戦争
への道を再び歩もうとし
ている今の日本で、一人
でも多くの被爆体験をた
くさんの人に明らかにし
てもらい、戦争の悲惨さ
を私も含めて若い人たち
に伝えられることが大切
だと思います。

憲法改悪もねらわれる
今年、なんとしても九条
を守り、子どもたちに平
和な未来をひきつがなけ
れば!

クロスワードパズル応募はがきより...

comcom 2005.7月号

南医療生協 (愛知) 梅村紅美子 (40歳・事務)

南生協病院でも「9条の会」をつくり、活動を始めました。まずはカンパを集めて、「I LOVE PEACE」のロゴ入りオリジナルボールペンをつくり、全国版「9条の会」リーフレットといっしょに普及しています。この普及活動を手伝ってくれる人を「ピーススタッフ」として募集中です。

9条の会作ろうニュース

2005.1.20

南生協病院 9条の会作隊

19日の各新聞で、経団連が9条改憲を提言した記事がありました。NHK新聞でも、当の関係者が対象ではなく、政治家の任力を称賛した朝日新聞に攻撃が向いていて、なんが？ですよね。ショウダンテキジエイゲンって？戦争の準備を進めるとき、国民に「戦争をしますよ！」という国はない。ある時は人道復興支援、ある時は国際貢献、あるいはテロに屈しないとか、国民を保護するとか...

いのちを守る医療生協の大前提である平和がじわじわと削られていき、未来を担う子どもたちも皆め戦争で死ぬのもありって時代が来るかもしれない時に、やっぱりちょっとおかしいと感じている人が、小さな声でも上げていかないと、間違いなく憲法9条は変えられるでしょう。

私たちは、大江健三郎さんや井上ひさしさんやいろんな著名人が墨を出して作った9条の会の呼びかけに答えたいと思い、南生協病院にも「9条の会」を作りたいと思っています。

忙しい人ばかりなので、どこまでやれるかはわかりませんが、やらないと日本がアメリカの一分子(ドゥメイコク)として石連のために、世界での方づくの補給のために、アメリカの云々事を甚かない国の人たちと戦うことになるのは間違いないでしょう。(ウーン、マチガイナイ)

とにかく誰でも参加できる自由な形態で、危険な時代の警鐘を鳴らし平和を守るため、9条を守るという一点で一致する運動を始めようと考えました。

【呼びかけ人】 柳原 健、板津 橋本、長谷川(健)、河内、南村、木村、宮田、原、加藤(栄)、横山(裕)、内藤、小川
※他にもいろいろあってくれた人で氏名掲載未確認の方が多数いらっしゃいます。

南医療生協 梅村紅美子 (40歳・事務)
大江健三郎さんの「多くの人の死を経験して、倫理的な憲法が生まれた」という話と、私たち医療者が苦しんでいる人たちが希望を持てるよう手助けができる職業であるという言葉に感動しました。大人としての責任を感じ、そして、「女意気」を見せられる人になりたいと思いました。「comcom」05.3月号

今 動かなければの思いを強く 愛知 梅村 紅美子

「九条の会をうちの病院でもつくらない?」。そんなひと言がきっかけで、今私の職場でも「九条を守る会」(仮称)ができようとしています。

2月号で小浜陽一さんの「なぜ憲法9条を変えてはいけないか」を読んで「今、動かなければ!!」の思いを強くしました。9条がユーラシア大陸東側での戦争の抑止力になっているということには深くうなずきました。

子どもたちを徴兵でとられないために、平和な日本を引きつづけるために、一歩ふみ出したいです。

「民医連医療」05.4月号(南生協病院 事務)

I LOVE PEACE!



特集「平和をつくる」

リポート 各地の「憲法を守る活動」

南医療生協

平和というコトバを言う機会はありませんか?と考えると、今まで深く考えたことも、言う機会もなかったと思います。二〇〇四年八月六日、広島での原水爆禁止世界大会への参加。二〇〇五年三月一日のビキニデーへ参加をしていく中で、多くの方々と出会いました。歳も国籍もバラバラの人びとが一つになって平和を願う...とても素敵なことだと感じましたし、その行動に参加できた喜びと、今まで何も考えていなかった自分に気がつくきました。

南生協病院でも、職種も年齢もバラバラの職員で「九条の会」を結成。今後は、ボールペンを作ったり、花を売ったりと、活動の場を広げていきたいです!今は「戦争のつくりかた」の本を回し読みしています。

(南生協病院 医療サービス課 木村友希乃)

2005年 5月号
「com com」

名古屋市

梅村 紅美子

(病院事務 40歳)

長野県上田市の戦没者追悼会という同僚学生美術師「無言館」の生の思いであふれ、胸が詰まる思いでした。それは「無言館」が、何者かに赤いペンキをかけたという記事を読んだという記事(2月20日付)を読み、ショックを受け、激しい怒りを覚えました。

昨年夏、わが家は「ちひろを訪ねる旅」を企画し、安曇野ちひろ美術館と、松本市に建立されたばかりの、ちひろ記念館を回り、ちひろの足跡をたどって来ました。「せっかくこ」まで来たから、「ちひろ」を結びつけて「無言館」にも行きました。

無言館慰霊碑、赤いペンキが

2005.7.24
「あの日、あの戦争を忘れてほしくない」という多岐な人たちの言葉で「無言館」がつけられた慰霊碑が、つづつとあり、涙があふれました。

赤いペンキをかけた犯人にもせいで涙を流して、強くお願いしました。

ケアマネとして再出発



2006年1月、私は、連携室時代の過酷な状況の中で奇跡的に合格したケアマネジャーの資格を生かして、星崎診療所のケアマネジャーとして再出発をすることになりました。

3月には退職する柴山さんに3ヶ月ついて研修ができるということで、「しばらく診療所でゆっくりしてこい！」という病院事務長の言葉を信じて、年末に挨拶に行くと、診療所事務長から「柴山さんのあとの管理者になってもらう」と言われて、びっくり仰天！

ケアマネ初心者で、3月いっぱいまではまだリハビリ勤務（休職中）の私が、しかも4月には介護保険の大改定が迫っているという状況の中で、「そんなめちゃくちゃな・・・」と断りましたが、押し切られてしまいました。

1月に2時間からリハビリ勤務を始めましたが、親しい柴山さんの配慮もあって、楽しい研修期間でした。

とにかく、何より「利用者さんのお宅を訪問する」ということがとても新鮮で（もちろん緊張も半端じゃないですが）、柴山さんとの訪問はとても楽しくて、でも一方で困難を抱えている家庭の実情も見えてくる中で、一人前のケアマネとして、「管理者」までもやっていけるだろうか？という不安もいっぱいでした。

案の定、柴山さんが去った後は、とにかく毎日が必死の状態が続きました。

介護保険の改定に関わって、業務の変更や実務の増加、あとからあとから続く新規の依頼、私自身もわからないのに誰も教えてくれる人が身近になくて、逆に私が改定内容をみんなに伝えないといけなくて、「どうしたらみんなにわかっ

「梅村さんへのエール！」

私が梅村さんにお会いしたのは、生協に入職した頃。いつも民青同盟の何かの集まりで食堂（なつかしいテーブルの下に引っ込んでしまうイスのところ）で、みーちゃんがテーブルの上でハイハイしていたのを思い出します。

それから、庶務課の頃、私は看学対担当で、よく隣の庶務課にお邪魔してっていました。千葉さんもいらっやいましたね。

柴山家の結婚式でもお世話になりました。

そして、私が相談室のときは、地域医療連携室で、水色のブラウスにスーツ姿がカッコいい梅村さんと同じ部屋でしたね。いつも花や木が絶えない机周りには、女性らしいなあと感心していました。

そして、星崎診療所。2006年お正月明けから2ヶ月間ずっと一緒に働かせてもらいました。

梅村さんは、この生協でいろいろな職場で働いてきて、コンピューターの力や人脈やいろいろな知識や制度、地域を知っていて、それらの経験がとってもケアマネの仕事に役立つし、ぴったりの仕事だと思いました。

わりと一般的に「ケアマネなんて大変だからいや！」ってあまりやりたがらないけど、私は面白い仕事だと思っています。今もやってますよ。（仕事のおかげで早くこっこの地域になれてきたと自分なりに思っています）

私がバタバタと辞めてしまい、仕事いっぱい残して行ってすみませんでした。体調も充分ではなかったときだっただろうに、私のことをとっても気遣ってくれて、本当にありがとうございました。

お別れのプレゼントの訪問カバン、ぼろぼろになったけどまだ毎日使っていますよ。こっちに着てからさみしいときも連絡いただいて、ほんとにほんとに恩人の梅村さん、ありがとうございました。

梅村さんはずっと体調不良と戦いながら、つきあいながら、がんばって仕事してきたと思うので、退職はつらいことかと思いますが、ちょっとゆっくりしてください。生協やめても、付き合いが切れちゃうわけじゃないし、（私は遠くに行ったけど、つながっていると思っています）今後ともよろしくお願いします。

柴山由美子



てもらえるか?」「どうしたらよりよいケアマネになれるだろうか?」とそんなことばかりが頭の中をぐるぐる回っていました。

まずは、私がわかりたくて、「介護認定審査会の変化」や「模擬患者さんとの対応」などの学習会を企画してほかの事業所にも参加をよびかけたり、マニュアルを作ったり、と自分のレベルアップのためのことが、ほかのケアマネとも共有できないか努力をしました。

利用者さんやご家族との関係では、誰にもいえない悩みを打ち明けてくださったり、逆にこちらが励まされたり、と新しい出会いに満ち溢れた日々でしたが、今の世の中の矛盾が凝縮したような困難な事例になぜかいくつもぶつかり、区役所や地域包括、保健所、高齢者虐待センターなどとの連携で学ぶことも多く、悩みも耐えない日々でした。

そんな中で、3月ごろから始まった腰の痛みが一向によくならないばかりか、痛みや冷感が強くなり、広がっていきましました。

何度も整形やマッサージにも通いましたが、夏には汗をだらだらかいているのに手足が冷えて痛かったり、冷や汗が出るような状態になっていました。

10月には、メンタルの医師から「3ヶ月の休養が必要」と診断を書くと言われて、上司に相談しましたが、「すぐには無理だから」と言われて、私は代わりのケアマネが来てくれるのをずっと待っていました。

そんな中で、利用者さんとのトラブルの対応が続いて、日中自分の担当の仕事の処理ができなくて遅くまで残っての仕事が続くようになりました。

どんどんたまっていく自分の残務にストレスはたまる一方で、でもそんな気持ちを伝えても一向に代わりのケアマネは来る気配がないまま12月になりました。その頃にはも毎毎日ふらふらの状態で、朝も起き上がれないのでフレックスタイムで起きた時間に出勤するという状況でした。

そんな私に「リハビリ復帰の人の対応をしてほしい」という依頼が上司からきました。病休が必要だといわれて2ヶ月以上働き続けているのに、そんなことは無理です」と断りましたが、無駄でした。

12月に2度「1ヶ月の休務加療が必要」の診断を出しましたが、休みに入れる体制にならず、倒れる寸前、1月にほかのメンバーに頭を下げて、仕事を引き受けてもらって、休みに入りました。

(1) 2006年10月号

【表1】「要介護」から「要支援」となった57症例

認定更新前	認定更新後	
	要支援1	要支援2
要介護1	4件(7.0%)	49件(84.2%)
要介護2	1件(1.8%)	4件(7.0%)

【表2】介護度が「要支援」となって変化したこと

項目	改善	維持	悪化	不明
①運動・移動	8.3%	79.5%	8.3%	1.0%
②外出	増加 8.4%	変化なし 78.8%	減少 16.0%	不明 0%
③家事	改善 1.5%	維持 87.5%	悪化 8.0%	不明 1.0%
④社会的参加 (コミニケーション)	改善 5.3%	維持 82.4%	悪化 12.3%	不明 0%
⑤サービス利用	増加 9.1%	変化なし 87.3%	減少 23.6%	不明 0%
⑥経済的負担	改善 11.8%	維持 82.7%	悪化 25.5%	不明 0%

愛知民医連 第268号

介護保険 予防給付対象者アンケートを実施

南医学生協 ケアマネ委員会

経済負担悪化25.5% (赤字) 貸しはがし12.3%

介護保険制度がどう変わるのか、2006年10月の調査結果を公表しました。改正で増えた「予防給付」が、利用者さんにとってどんな存在になるのか、その実態を調査しました。

◆予防給付対象者アンケート実施
アンケート実施
南医学生協 ケアマネ委員会

梅村紅美子

これに対してケアマネがどう対応したか、アンケートで調査しました。

◆8・8の方が予防給付対象に
八ヶ岳市、南医学生協で実施されたアンケートの結果、八ヶ岳市で「予防給付」の対象者が増えたと報告されました。

◆「要支援」になったこと
「要支援」になったこと、調査結果から見て、利用者の生活が安定していることが多く、経済的負担が軽減されていることがわかりました。

◆「要介護」になったこと
「要介護」になったこと、調査結果から見て、利用者の生活が安定していることが多く、経済的負担が軽減されていることがわかりました。

◆サービス利用削減
サービス利用削減
介護保険制度は、心身の健康が変化していないのに、要支援・要介護に認定されたという状況です。中には期間での状態変化のため、介護認定（要介護）の認定が変更された人も見られました。

◆調査結果
調査結果は、心身の健康が変化していないのに、要支援・要介護に認定されたという状況です。中には期間での状態変化のため、介護認定（要介護）の認定が変更された人も見られました。

無差別・平等は民医連綱領の『憲法9条』!

2007年1月から休みに入りましたが、中途半端に放り出してしまった仕事が気になるのと、「どうしてもっと早く休みに入らせてくれなかったんだ!」という怒りのエネルギーがおさまらず、ちっとも身体は休まらない状態が続きました。

同時期に、南生協病院の「新築移転」「差額ベッド代徴収」問題、「人事評価制度」など、納得のいかない問題が私の怒りをかき立てていました。どの問題についても、文章で意見を提出しても、きちんとした回答は戻ってきませんでした。

就職したときに何よりも大切だと教え込まれた「民医連綱領」がらどんどん離れていこうとしていることに、どうして気づかないのか不思議でなりませんでした。

怒りのエネルギーが私の身体と心を痛めていることに気づき、しばらくは生協の人とは関わらず、情報も耳に入らないようにと思っていました。

でも、5月の労組の臨時大会には、「同じ志を持った職員同士だったはずなのに、『分裂』すらしそうなのはなぜだろう?」「直接みんなの声を聞いてみたい」と思って、参加しました。

ただ聞くだけにしようと思っていたけれど、「このままでは分裂してしまう!」という思いに駆られて、つい発言をしてしまいました。

法人は「払える人からだけ差額徴収する」「医療上必要な人からは取らない」というけれど、医療の現場でだれがそんな判断ができるのか理解できなかつたし、そもそも「個室料徴収は時代の流れ」という考え方そのものが、「無差別・平等」の民医連の魂から逸脱していると私は思ったからでした。

でも、その方向に今も法人は進み続けようとしています。

組織部員から「もう南生協は『ブランド』なんだから」という言葉を聞いたときは、開いた口がふさがりませんでした。

「ブランド」の病院に、貧乏人は必要ないのでしょか? だったら、民医連の旗を降ろすべきでしょう。

「後期高齢者医療」など、医療に限らず庶民のいのちとくらしを脅かす政治の中でこそ、「民医連綱領」の貫いてほしいと、心から願っています。

これからは、組合員・患者として、南生協病院を応援していきます。



昨年5月の臨時大会での、梅村さんの「差額ベッド代を取らないのは、民医連・南医療生協の憲法9条と同じ意味を持つ」との発言で、我が労組は分裂を回避することができました。



梅村さんは、いわば労組にとって「命の恩人」ですが、その方の雇用の継続ができないという事態になってしまったことは、本当に悔やまれ、私たちの力不足を感じます。

階級的な立場に立ち、良識的な方々が南医療生協を続々と去って行かれることに、大いなる危惧を抱かざるを得ませんが、梅村さんが残した足跡を守り、次世代につなげるため、これからどんな妨害があっても闘っていく所存です。この闘いは、決して無駄にはなりません。

今後とも、良識が下されるまで支援していく所存です。

南医療生協労働組合 中央書記長 田島保利

就職して20年余りたつけど、実は梅ちゃんとは同じ職場で一緒に働いたことがないんだよね。

職場はちがっても、梅ちゃんを見てると、いつも凛としていて全力投球！

どこでもみんなのために気配り・心配りを忘れないで、新しい風を起こし、切り開いているなぁと見てました。本当に、いっぱい足跡が残っているね。

一方で、その全力投球の姿を、いつの頃からかあきらめてる私は、大丈夫かなぁ～と心配で見ていたのだけれど。

でもやっぱり、今まで梅ちゃん自身が一番しんどいときでも、みんなの前で話してきたことは、決して梅ちゃんだけの問題でない、みんなにとっても大切なことがたくさん語られていたように思います。

その思いをもっと「みんなのため」にも共有して、受け止め動ける自分だったらと、今さらながら思っています。

子どもが小さい時は、「ししゃもの会」で梅ちゃんちにお泊りして、雷が鳴った時のエピソードは忘れられない思い出だけど、そうしたつながりや存在が働き続けてくれる力にもなってきたんだよね。

これから、どんどん変わっていってしまおうとしている状況の中で、梅ちゃん存在は私にとってもますます大切なものと思います。

今しばらくは身体の調子と向き合いながら、家族の中で少しゆっくり時を過ごすこともきっと必要な時間でもあったんだと思う。

これからも、梅ちゃんらしくいろんな形で発信して行って下さい。私のいる限り待ってるよ！（いなくなっても！）

今までもありがとう。そしてこれからも引き続きよろしくね。

鷺野雅子



梅村様へ

長い間、ご苦労様でした。残念です。

今、梅村さんのような人の痛みのわかる常識的な人はいません。

私はいま派遣です。でも、人手がなく、パートのときと同じ仕事もしています。受付には17年くらいいます。

皆仕事に「圧」がかかるのか、「うつ病」になっています。いろいろ見てきましたが、退職がよい選択だったと思います。仕事もよくでき、頭のよい貴女を失うことは残念です。

私は大野京子さんと仕事がしたくて、受付を希望しました。思ったとおり素敵な人でしたよ。

医師の日野原重明さんが好きです。

「人は、いくつになっても生きかたを変えることができます」

「夢中になれることに出会えると、心は健康になります」

「運命も健康も変えられるのは、自分自身だけです」

一部、抜粋しました。

梅村さんとは、終わりではなく、はじまりです。

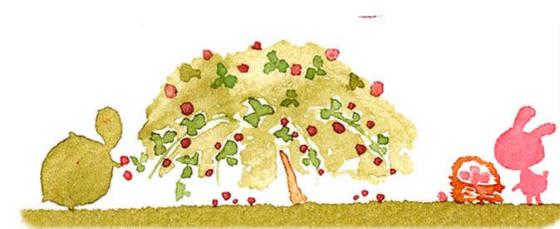
おばさんですが、よろしくをお願いします。

旅行も大好きで、昨年中国、石垣島へ。

お参りも好きで、本四国88ヶ所、番外20ヶ所行ってきました。

また、コメダでお茶でもお願いします。

佐藤万里子



ありがとう！学童保育のなかま

みずきと航太とで学童とのつき合いは11年になります。それも今年が最後です。長いようで、でもあっという間だった気がします。

保育園の父母会活動もそうでしたが、職場のまったくちがうお母さん、お父さんと交流できて、子どもたちのために力を合わせられるのは、とてもうれしいことでした。

もちろん、年間通してつぎつぎとやってくる行事に疲れる部分がないわけではないですが、大変だからこそみんなとの協力が必要で、それを達成する中で、共感や連帯が生まれて、わが子だけでなく、どの子もかわいい大切な子どもたちと思える大人の大きな輪ができると思うからです。

保育園とはちがって、だんだん子どもの姿が見えにくくなっていく小学校では、なおさら「うちの子こんなんで大丈夫かしら？」と話ができる仲間がいることは心強かったです。

学童のみなさん、本当にありがとう！



安ちゃんとキャンプの司会でのツーショット

☆ 梅ちゃんへ☆

梅ちゃんとは、子供の学童のキャンプで偶々同じお手伝いをしたことがきっかけで親しくなりました。最初はよく気がつく、テキパキとしたお母さん、それから、アイデア一杯で一生懸命何事にも粘り強く取り組む姿が印象的でした。きっと仕事への姿勢もこんな“熱い”感じだろうと想像して・・・。

一方、子どもへの視線は優しく、温かなお母さんの一面も垣間見えて、そのバランスが介護に関わる仕事に合っているのだろうと想像。

病と闘いながらも何とか仕事を続けたいという気持ちを知っていたので、「辞めてしまうかも」「辞めることになった」と聞いた時には複雑な気持ちでした。

身体の為には、辞めることも良い選択の一つと思いながらも、本人の“想い”を推し量るとね～。でもこれからを後で振り返って、良い選択をしたと思えるようなスタートになればと願っています。応援しています。

身体を労り、不調と好調との塩梅を操りながら、これからの為に、少しずつ歩みを進めて貰えたらと願っています。そんな中で日々の幸せを見つけられたらよいですね。人生折り返し地点ですから、まだまだこれから苦楽一杯。

梅ちゃんのこと、その“熱い”姿勢が良いスパイスとなって、美味しい人生になりますように・・・。折々で、また色々な話が出来たらいいな～。お互いに頑張りましょう。

20年間、本当にお疲れ様でした！

2008年5月吉日 安ちゃんより



↑ 毎年恒例2泊3日の学童キャンプ



↑ 緑区学童合同運動会の仮装
ちなみに、私は写っていません

← 航太の竹馬姿

しあわせの黄色いリボン 

はじめまして。5年生の梅村ことこの母です。 2007.4.18 

体調を崩して、自宅療養中ですが、リビンのために、
 共小の1年生のお迎えに行かせてもらっています。
 「あはさん」と呼ばれるとオバサンとくさくなりそうなの。
 「梅ちゃんと呼んで」と1年生にはお願ひしています。
 「くみちゃん」「くみこさん」「あはさん」と呼ばれることもあはま。
 今日は気分が良いので、おたよりを書いってみました。

先週ははじめは、緊張していた子どもたちと、学校生活にも少し
 慣れてきたように、お迎えに行くと「今日はね、おにごっこやると
 やったよ」「赤白組のうまをスポーのうしろにはさんで、とられないおに
 逃げんだよー」「ボク鬼だったあ、とおしゃべりの涙です。
 先週は口数の少なからずあやかしん、こういんとも負けませんでした。

北小は学童までの道のりが長いので、今日は、行きに豊川橋に「黄色
 いマーク」をつけて、5ヶ所にお礼をあげ、「だから探し」をしなから
 帰ってきました。(本当はこんなことをしたらクマやクマ、おにや
 しん、いつか見つけたカードのうらに書いてある質問が増えます。

Q1. すきな色は？
 オレンジ、ピンク、みずいろ...

Q2. すきな食べものは？
 いちご、チキン、牛乳、肉...

Q3. ゆめは？
 サッカーの選手、水泳の選手...

Q4. 学童のせんぱいは？
 「めったんが好き!」、その他は...
 まだ1年生のことはわからないか?

Q5. ... あい? 何を聞いたの? 思い出せない。う、年はどい
 りか...

途中、同時にマークを見つけようやくんと接触して、フェンスに
 ぶつかって泣き止んだあみちゃんに、「だいじょうぶ」「ごめんね」
 「あはなみちゃん見つけたよ」とそれをうらに励ましてくみちゃん。
 「もう見つけた人は見つけたらさっさとクマにいしょ」「私一番最後さ
 いい」と、レールを探検してくみちゃん。
 「逃げない!」「交差点では左右確認」とお通しれと声かけ
 しなから「安全に楽しくクマ-ズに」に負をつけて
 帰ってきます。

4月中は、体調が悪くなければお迎えに行きますの
 よろしくお願ひします。
 梅村紅美子 

私を救ってくれた九州の人たち

2007年6月に、家にいられないほどうつがひどくなったとき、2週間ほど九州の大学時代の友人びすこさん宅に転地療養をさせてもらっていました。

重い障害を持った夫と子ども2人を支えながら、彼女はあたたかく私を迎えてくれました。

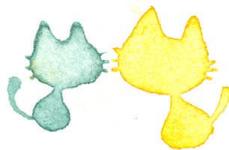
蛍やきつねやたぬきが出るような自然いっぱいの中で、ぼんやりゆったりと過ごす時間の中で、しぼんでいた私の心は満たされていきました。

大分の大学時代の大親友にも会え、新聞の投稿記事がきっかけで文通していた由見（よしみ）さんとも会えて、初対面なのに3時間もおしゃべりしたあげく、ずうずうしくもその日お宅に泊めてもらってしまうほど、心が通じ合う出会いでした。

そのときから、由見さんは私の「大分のお母さん」です。いまも、自宅で取れた新鮮な季節の野菜やお米などを、涙が出るようなあたたかい手紙を添えて、送ってもらっています。



←びすこさん・良太くん・ももちゃん
と大分県久住
レゾネイトで



紅美ちゃん、今日は雨降りになりました。

今、紅美ちゃんが大変な決断を目の前にしていることを知り、私も他人事とは思えなくて・・・

あなたのご両親への気持ちも理解できます。

母親でもある私の立場から、子どもの体調が今以上に悪くならないためにはどんなことをしてでもできることをしたい、そのことが親の生きる張りになっていることも学びました。

子どものことなら、命を捨ててでも、そういう思いで生きてきました。私の母から学んだことです。

紅美ちゃんのご両親もそうだと思います。

あなたとお友達になれ、娘と同じように思えるのです。それはあなたのお母様も、あなたと同じように、こんな社会ではいけない！幸せな生活を求めるとき、ほかの人も一緒になければいけないと知ったから、そんな社会にしたいとの思いで生きてきました。そして、そんな中で病気になってしまったことは、私としっかりつながっています。

明日食べるにもこと欠く生活を経験してきました。差別もこの上なくされてきました。しかし、多くの人々の支えもあり、今日まで歩いてこれたのです。

これは真実を求め、歩いてきたからだと思っています。

「他人なのに申し訳ない」なんて思わないでね。同じ道を歩く仲間でもあるのよ！わが子をこよなく愛する親として、かけがえのない命と思う一人の母として手伝わせてね。



大分の母 由見ヒサ子 より

サークル仲間の病氣と別れ

2007年春、大学時代に同じサークルでがんばってきた同級生のざんぱん（福祉大生はみんなニックネームで呼び合っていた）が、年末に胃がんの手術をしたこと、かなり進行していたため完治は困難なことを知りました。

人生つらいこと、悲しいことがあると、やはり思い出すのはこれまでお世話になった人のこと。

ペケちゃんには本当に助けられるばかりだったなあ。本当に思います。田舎から出て行ったどこの馬の骨ともわからない私に、よくもまあいろいろと親身になってくれたなあ。ましてやペケちゃんのご家族にもいろいろ助けてもらって……。一番人生で輝く青春時代を一緒に過ごせたこと、幸せだったです。

あ、そうそう、去年の今ごろ、ペケちゃんが久住まで来てくれたよね。もう1年になったよ。

遠く離れていると、実際どんな生活をしているか見えないんだけど、ペケちゃんどうやって暮らしているだろうか、なんて気になっています。

何にもできないんだけど、でもペケちゃんが少しでも笑って過ごせているといいなあと思っています。



大親友「たらこ」と95年大阪花博で

彼は、大学卒業後、出身地新潟で障害者福祉施設で働いていました。

卒業以来、ずっと会うこともなく、年賀状だけのやり取りくらいでしたが、病氣のことを知ってからの手紙と、彼の書いたインターネット上の文章を読んで、言い知れない不安とつらさの中にありながら、決してあきらめず前を向き続けている彼の姿を知り、胸を打たれました。

7月下旬、彼がサークルの後輩が勤めている金沢の病院に緊急入院したことを後輩からの連絡で知り、状況がとても厳しいことがわかり、矢も盾もたまらず車をとばして、会いに行きました。

20年ぶりの彼は、げっそりやせ細り、自分では起き上がることもできない状態でしたが、意識はしっかりしていて、再会をととても喜んでくれました。

私が持っていった昔の写真やサークルの文集など、懐かしそうに眺めながら、本当にうれしそうに昔の話をしていました。

「無理するなよ！」「俺みたいになるなよ」そう彼は何度も言い、「また会おうね」と別れました。でも、それから数日後、彼はこの世を去りました。

「生きることを楽しめよ！」今も彼の言葉が聞こえてきます。



←サークル（視覚障害者福祉研究会）の追コン（卒業祝いコンパ）で
一番右から、ざんぱん、私、とんがり、たらこ、きょうじゅ

「線維筋痛症」と診断されて

2006年春からどんどんひどくなっていったからだの痛みは、もしかしたら「線維筋痛症じゃないか？」とそんな疑問を持ったのは、テレビで女子アナウンサーの人が「この病気を周りの人に理解されずに自殺」というニュースを聞いたときでした。

それから、あちこちの病院を回りましたが、「あなたみたいにぴんぴん歩いている人がそんな病気のはずがない！」「あの病気はシャワーにあたって激痛が走るんだよ！」と否定され続けました。

2007年9月になって、朝、手がこわばって動かないという症状がでてきました。リウマチを疑って、整形を受診したのですが検査では異常はなく、そのとき初めて「線維筋痛症かも？」と言われました。そこでその医師に「線維筋痛症友の会」を紹介してもらって、そのHPで診断のできる医療機関を探して受診したら、すぐその場で「線維筋痛症ですね」と診断されました。病名にたどり着くのに1年半かかりました。

でも、友の会のHPを見ると中には30年以上も病名にたどり着けなかった人たちもいることを知り、まだ私はマシなのかも？と思いました。

入院治療のときに、たまたま同じ日に同じ病室に入院したのが「やよ」との出会いでした。私が出会ったはじめての同じ病気の友だちです。

入院中も天候によって、身体が痛くて動けないという日もありました。その頃やよは私よりも痛みがひどくて、辛そうでした。

向かいのベッドなのでベッドに座りながら、いろんな話をしました。

私も相当いろんなことを乗り越えてきたつもりだったけれど、やよは私よりもずっと若いのにもっともっと苦勞をしてきていました。そして、そのつらさを誰にも話せてきていない気がしました。

退院してからも、受診のときに一緒に温泉に行ったり、メールのやりとりをしています。

私の大切な妹です。 やよ、これかもずっと仲良くしてね。



私が紅姉に会って・・・

太田弥生

紅姉に会って、人の痛みを我痛みに感じる人がいるのを知った

紅姉に会って、初めて自分を大切に出来るようになった

紅姉に会って、みんなの幸せを心から願えた

紅姉に会って、すべての生きとしいけるものが

有り難いと感じた

紅姉に会って、『まだ生きたい』と思った

紅姉に会えた事に、感謝しています。



耐えがたい痛み「線維筋痛症」 まわりの理解、心のケアも大切に

坂本和利
主治医 徳島大学付属病院 内科



線維筋痛症とは、全身的慢性疼痛疾患であり、全身に激しい痛みが起る病気です。一昨年、テレビ局の女性アナウンサーがこの病気で苦しむ、自殺したことから注目されました。

この病気は自律神経失調症や更年期障害、うつ病、不定愁訴症候群などと間違われやすく、明確な診断や有効な治療がおこなわれないまま、患者さんは医療機関を転々としてしまうことが多いのです。線維筋痛症は50歳代の女性に多いので

表 線維筋痛症の重症度
(厚生省研究班による記録)

ステージ1	11カ所以上の圧痛点で痛み、日常生活に重大な影響はない。
ステージ2	手足の指などに痛みが広がり不眠、うつ状態が続く。日常生活が困難に。
ステージ3	つめや髪への脱落、温度・湿度変化でも激しい痛み、自力での生活困難。
ステージ4	ほとんど寝たきり、自分の体重による痛みで、長時間同じ姿勢がとれない。
ステージ5	全身に激しい痛み、歩路の障害や口の障害、目の結核など、日常生活不可能。

すが、若年から高齢者、男性にも見られます。現在、人口の1・66%、全国で約200万人いると推定されています。原因についてはまだ不明な点が多いです。最近では、痛みを抑制する機能の低下が主な原因と考えられるようになり、痛みと感ずるか感じないかの境界が引き下げられ、少しの刺激でも痛いと感ずるようになったためと考えられています。これに対応して痛みを和らげる薬や方法などがわかってきました。

診断後、改善した例

症例をご紹介します。
札幌市在住、40歳代女性。数年前から肩こり、首筋、背中の痛みなどで痛みはじめ、やがて下痢、腹痛、不眠、冷え性

などとともに痛みがひどくなりました。

内科、整形外科、産婦人科、精神科などを受診しましたが、原因不明、自律神経失調症などといわれ、その後も症状は悪化。不眠、うつ症状なども強くなり、日中も寝ていることが多くなりました。

数年後、「線維筋痛症」と診断され、日常生活の中で痛みの緩和、軽減を試みましたが、少しずつ改善がみられ、いまでは普通に生活ができるほどに回復しています。病名がわかると何より、気持ちも楽になります。生活のなかで痛みをコントロールできるようなることが大切です。

「痛み」の症状が大きく変化

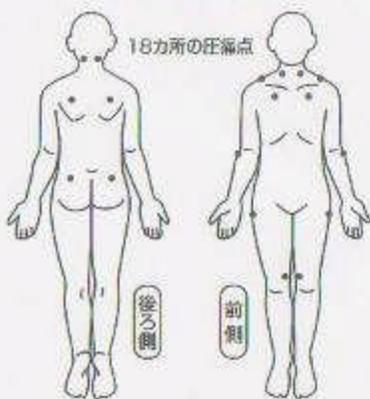
この病気の特徴は広範囲、またはある部分の痛みです。痛みは全身のどこにでもおきます。痛みの程度は軽度から激痛で耐え難いものまでさまざまです(表)。重症化すると、軽度の刺激(爪や髪への刺激、温度・湿度の変化、音などで激

痛が走ったり、痛みの部位が移動したり、天候などによって痛みの強さが変わったりすることもよくあります。

症状が大きく変化するため、「生活に支障がない時」と「悪化して困難になる時」があり、そのために「なまけ病」とか「廃用症候群」に使われないために能力が低下する「など」と誤解され、つらい日々を過ごす人も多くいます。一般の医療関係者にも理解できないために、さらに深刻な状況になり、痛みも悪化し日常生活に支障をきたし、自力での生活は困難になることもあります。

また個人差はありますが、こわばり感、倦怠感、疲労感、睡眠障害、抑うつ、自律神経失調、頭痛、過敏性腸炎、微熱、ドライアイ、記憶障害、集中力欠如など

図 線維筋痛症の診断



検査で異常が見つからない

明確な診断基準はなく、現時点では1990年アメリカリウマチ学会の分類基準(図)を参考にしています。全身に18カ所ある圧痛点を手指の力で押して10カ所以上の痛みがあり、また広範囲の痛みが3か月以上続いている場合、線維筋痛症と判断します。

初期には圧痛だけで診断できますが、進行した症例では併発症などの問題があるため、痛みの問診、経過、身体所見の観察に留意した医師の診断も大切です。血液、レントゲン、CRPという炎症反応、筋内の酵素、筋電図、CT、MRIなどの検査でも異常が見つからないのがこの病気の特徴です。

痛みのコントロールが大切

現在、特效薬はありません。中枢神経の異常によって痛みの回路が変わるために痛みを抑える体の機能が働かず、痛み

を増加させると考えられています。この状態に対して症状の軽減がおこなわれます。鎮痛剤などは効かない場合が多く、薬物療法として脳内の痛みをコントロールする作用がある向精神薬(抗うつ剤)などを服用することが主流です。その他、抗けいれん剤、自律神経調整薬、漢方薬などを使います。

また、他の病気を併発するとその病気の悪化で痛みが増すため、合併症の検査や治療も同時におこなわれなければなりません。筋力低下防止のための運動、リハビリの効果的な活用とともに、筋肉の緊張をとる効果のあるリラクゼーション(呼吸法、マッサージ、温泉など)の併用が改善に向けて期待できます。

日常生活のなかで痛みの状況を抑え、痛みをコントロールすることでかなりの改善が得られます。痛みの変化などを手帳などに記録し、その状況や程度、内容を把握します。そして痛みに対する薬やリハビリなどを工夫してコントロールします。それが適切な対処であれば睡眠と日中の活動が向上し、痛みが少しずつ改善に向かうことが期待できます。

日常生活での不安や緊張が痛みを悪化させる原因になっていることも多いので、不安や緊張をひきおこす要因を探し、それに対してリラクゼーションできる状況を作ることも大切です。

全国から支えてくれている仲間たち

2007年11月、大学卒業20周年記念の同窓会を親しい仲間で開催しました。20周年記念に、一緒に大学で過ごした前後の学年にも声をかけ、懐かしい仲間が北は北海道南は愛媛から、30人集まりました。

それから、mixi（ネットコミュニティ）で毎晩のようにおしゃべりをするようになりました。

家で一人で過ごす時間が多くなった私には、この全国の仲間の励まし
が本当に救いになりました。

民医連で働く仲間も多く、南生協に対する疑問や全国からの評価も聞く
ことができたり、線維筋痛症の署名にもそれぞれの職場や地域で集めてく
れて協力してくれました。 みんな、本当にありがとう！

ペケ、21年間お疲れ様。

ほんとはこれからペケと同じ民医連職員と
していろいろ励まし合ったり、教わったりでき
る気がしてただけに残念。

大学の卒業生代表の答辞に4年間のいろんな
思い代弁してくれてる！と思い聞き、それがペ
ケの作ったものと知ったのはつい最近。

同窓会欠席のわたしの元に届いた素敵な報告集、それからはじまった
ペケとのおつきあい。いろんなことささあとでさっすごいペケや、
あったかい優しいペケやら。

でも、わたしが一番心動かされたのは 差額ベット問題かな。たまたま
民医連総会の代議員になる機会があり ペケの南生協への熱い想いも
連れて参加。分散会で発言も。(口下手なわたしが 発言通告なしで。ペ
ケの想いに突き動かされたんだよなあ)

新しい門出のペケへ

南の中で育てられた素敵なペケ、これからますますしなやかで優しく
たくましいペケでいてください。あせらず気負わずリラックス笑顔で！

鳥取の まっちゃんより



ペケ、私とあなたは25年のつきあい。19年前、私の心が壊
れて行き着くところまで行ったとき、あなたは飛んできてくれ
た。

目が覚めた時、あなたの残していったたくさんの白いトルコ桔
梗が私のベッドの横で揺れていた。あの時私は、あなたのためな
らどんなことでもしようと心に決めた。

昨年の同窓会で会ってから、ペケは病と職場という二つの大き
な壁と闘いながらも、常に仲間たちへの気遣いを忘れなかった。

ペケは心やさしきたたかう人。

ペケは自分の痛みの中で、仲間の誕生日に花を贈り、悩んで泣
く仲間に庭の花を摘んで花かごをこしらえ、メールを飛ばし、メ
ッセージを送り、仲間の心に寄り添い、いつもいつも私たちの大
きな支えだった。

そのあなたが退職を突き付けられ、刀折れ矢尽きて、くずれた。

あなたをなくしたらどうしよう！！

私は、仕事をしながら、子どもの食事を作りながら、朝から晩
まであなたを思い、受話器を通してあなたの泣き声を聞くたびに
あなたの悲しみと苦しみを思い、飛んで行けない自分を責めた。
あなたをこんなに苦しめる職場に怒りをつのらせた。

そして、遠い地に住む、障害を持つ夫と息子と娘を守りながら
生きる先輩が「負けるんじゃないの。いったん旗をまいてしまっ
ておくのよ」とあなたにいった。

そのひとことがあなたの心を少し安らかにしたのね。

ペケが私たちのもとに帰ってきたとき、私たちがどんなに安心
したか、ペケ、あなたは知っていますか？

日本中に散らばる仲間たちは、これ
からもペケの一番の味方であり、ペケ
が私たちにしてくれたように誰よりも
あなたを応援しているからね。

ペケの存在は私を励まし、仲間と仲
間をつなぐ確かな糸。ありがとうね、

ペケ。ずっとずっと宝物のような友
達だよ。

「かめ」こと 高橋真理





2008 3.4.H しんぶん 赤 旗

名古屋市
梅村紅美子(43歳)
「線維筋痛症」患者と
して、1月20日付に投書
を載せていただいたてか
ら、「がんばってね」と、
温かい言葉をたくさんい
ただきました。

私の夫が職場で広げた
署名を見た、せきゆき子
さん(衆院東海比例候
補)からの声かけで、2
月14日、厚生労働省交渉
に参加しました。事前に
通知していた要望項目は
①線維筋痛症を難病に認
定を②国際疾病分類に記

載されているこの病気 4000人(0・2%)
を、日本でも保険適用に
したいこと、診断を
できる医療機関がわずか
大を、の3点でした。
厚労省は、「難病」とし
て認めるに 精神的にも苦痛を抱えて
は、線維筋 いることを訴えました。
痛症の患者 この病気の困難さを、
が推定20 多くの人に知ってもら
0万人で多 ない、病名にもたどり
すぎるなど つけていない人たち、痛
と、いずれ みや生活の困難に耐えて
の項目につ いる患者は救われない
と、決意を新たにした交
渉でした。友人・知人に
頼んだ署名も、3000
人を超えそうです。

線維筋痛症で
厚労省と交渉

「線維筋痛症」
知っていますか
名古屋市
梅村紅美子(43歳)
「線維筋痛症」という
病気をこぼしてしまっ
たか? 2年前、病院事務
からケアマネジャーに転
身して3カ月の間に、
症状は始まりました。
強い冷感を伴った痛み
としびれが、腰と左もも
から始まり、体のあちこ
ちに広がりました。特に
夏場のエアコンは、体に
はきついものでした。

女性アナウンサーがこ
の病気を舌に自覚された
感、睡眠障害、抑うつ感
とき、「私もこの病気だ
な」と、症状は多岐にわた
は、「」と願って、いくつも
の病院・診療科を受診し
ました。検査では異常は
見つからず、「普通に歩
ける人がそんな病気であ
るはずがない」と否定さ
れ続けてきました。

昨年8月に、手のこわ
ばりがひどくなって、受

診したときに、「線維筋
痛症」だとわかりまし
た。「線維筋痛症」とい
かう(医療書出版)によ
ると、またこの病気の認
識度は低く、潜在患者も
含めると、日本にも20
0万人の患者がいるとい
われています。

強い疲労感・けん怠
感、睡眠障害、抑うつ感
とが周りに理解されない
ことです。また保険適用
もありません。原因や治
療の研究が、一日も早く進
むように、「難病指定



日本福祉大学同窓生の仲間たち

新たな出会いとあったかいつながり

「線維筋痛症」と診断された頃、薬剤師の中島さんに勧められて太極拳を習い始めました。

私の中での太極拳のイメージは、ゆったりまったりと動く体操という感じで、「運動するならもっとアクティブなものを！」とっていました。でも、自分自身の価値観の土台が揺れていたその時期、いままで敬遠していたものにも頭から決め付けずに触れてみようという思いがあったのと、先生のお名前を聞いて、びびびっと運命的なものも感じて、紹介された翌日には教室に体験入学しました。

先生のお名前は「劉紅年」（りゅうこうねん）先生。

まるで、太陽のように明るく、謙虚で、初めてお会いしたときから、大ファンになりました。

先生は言われます。「人間は道具を使うことで、自分の能力以上の力を出ることができるようになった」「例えば、乗り物に乗ったりすると、まるで自分自身が速くなったような錯覚を起こすが、人間が自分自身の体でできることは今も昔も大して変わっていない」「それを錯覚して、『能力以上のことをやれる！』と頭だけで思ってしまうと、体がそれについていけなくなる」「まずは自分の足で動くことが大事！」「そして、その足も欲張りな大きな一歩ではなく、ひざにゆとりを持って、いつでも次の一歩が踏み出せる体勢でいなさい」「いつも謙虚でありなさい」「感謝を忘れずに」「いつまでも勉強」。先生の言葉は、いつも私を明るい方向へ導いてくれます。

そうした先生の人柄に引かれて、集まってくる教室の仲間のみなさんもとてもあたたかい人たちばかりです。



太極拳教室の仲間のみなさん
中央水色の服が劉先生、右から2人目ピンクが中島さん
後列紫色が私です。

梅村さんには数年病院の組織推進委員会でお世話になりました。生協強化月間で院内班会をやったことが一番記憶に残っています。なかでもお化粧班会がおもしろく、病院を訪れた女性たちと一緒においに楽しみました。梅村さんの人脈の豊富さ、組織力、準備のきめ細かさに、いつも脱帽しておりました。

生協を離れたところでの最近のおつきあいとしては、太極拳ですね。

梅村さんが肩、腕の腫れ浮腫みで本当に痛々しい姿でいらしたとき、リンパ液の流れをよくする太極拳がこの人の病をよくしてくれるのでは、とかなり強引に誘ってしまいました。

太極拳は「動的自律訓練法」であると私は勝手に名づけていますが、たぶんはずれていないと思います。

結果的に退職となってしまわれたので、「間に合わなかった」感がありますが、薬とは違う病をコントロールするツールがあっていいものだと思います。

そう言っている自分自身の体調管理もままならないですが、太極拳は人生にマイナスになることはなくプラスばかりですから、

これからも末永く一緒にやっていきましょう。

::*:*:* :中島 静子 *:*:*:*:*

病気の治療も、自分の将来も、先が見えずにもがいていた時、私の手に触れたあたたかいものが他にもあります。

2月3日と毎週土曜に通った「慢性疾患セルフマネジメント研修」もそのひとつでした。慢性疾患の患者やその家族らが自らリーダーとなってセルフマネジメントの勉強を導いてくれました。糖尿病・高血圧・肝炎など病はちがっても、「周りに理解されにくい」「コントロールがなかなかうまくいかない」など同じような悩みを抱える仲間でした。

毎週、翌週までの課題を自分で決めて、その達成を喜び合い、励ましあう中で、たくさんのエネルギーをもらいました。

最終日、私は庭に咲いた花で一人ひとりに卒業祝いの小さなブーケを作っていました。そのブーケにちなんで「ももの会」と名づけ、卒業した今もそのときのメンバーとメールで近況や情報を交流しています。

この夏には、リーダー養成の研修会があるので、参加応募のための選考レポートを提出したところです。

選考に通ったら、私が担当してもらったような、心寄り添えるリーダーになれるように努力したいと思います。

先日、退職の挨拶にうかがったケアマネ時代の利用者さんの鈴木さん宅で、一緒に鈴木さんを一生懸命にフォローしてくれた訪問看護ステーションさくらの谷さんにもお会いできました。

鈴木さんは、私が病欠で担当ケアマネから外れるときに渡した絵葉書を、枕の下にずっと入れて、私の復帰を待っていてくれました。涙が出るほどうれしかったです。

庭の花を摘んで作って持っていったブーケをプレゼントして、記念撮影しました。

本当にたくさんの利用者さんや家族、ケアスタッフとの出会いとドラマがありました。

たった1年のケアマネでしたが、またいつかチャレンジしたい仕事でもあります。



梅村さんとの出逢いは、ケアマネ委員会を通じてでした。会ったり話す機会も決して多くなく、「お互い顔は知っています」程度のお付き合いでした。

ある日突然診療所へ電話を頂き、何か惹かれるものを感じ再会。「今まで友達だったのではなかったかしら!？」と錯覚するくらい、閉店まで何時間もお互いの話を話しました。私は心が開放されて本当に楽しい時を過ごしました。ほんの数ヶ月前の出来事です。

梅村さんは、病気など辛い事がたくさんあったでしょうに、いつも笑みが絶えません。優しく包みこみリラックスさせてくれる、伝如意輪観音のようです。それでいて、仕事や物事に真摯に向かう強さがあります。そんな梅村さんが私は好きです。これからも末永くお付き合いさせて下さいね。

私が闘病中に元気をもらった言葉を贈ります。

「ごきげんよう。なによりも快活でいらっしゃるように。人生をあまりむずかしく考えてはいけません。おそらくほんとうはもっとずっと簡単なものでしょうから。」(チェーホフの手紙より)

かなめ病院

山村智里



政年さん、みずき、航太、ありがとう！これからも、よろしくね!!

結婚してから今年で18年。いろんなことがありました。突っ走っては転び、また突っ走っては転び。入院回数も数知れず。家族にも、たくさんたくさん心配をかけてきました。

結婚するとき、私は「『専従の妻なんだから、家計も家族も私が支えていかなきゃ!』と自分ひとりで決めていたんだ」ということに、つい最近気がつきました。

お互いに忙しくて、ゆっくりと時間をとって話し合うことができないままに、いろんなことを自分ひとりで抱え込んでいたんですね。「もっと、いろいろ相談して二人で決めたい」 そう思っていたのに、いつのまにかあきらめていたんですね。

退職になって、「家計をどうしていくか」を具体的に話をせざるを得ない状況になって、なんだか初めて心底向き合えたような気がしています。まだまだ、人生半ば。これからもいろんなことがあると思うけれど、これからは少しペースを落として、話し合って決めていきたいと思います。気が短くて、口の悪い妻であり、怒りんぼうの母ですが、これからもどうぞよろしくお願ひします。



夫が誕生日祝いに買ってくれた
私のお気に入り三輪車

紅美子さんへ

あなたが人生の中でいちばん苦しいとき、頼りない夫で申しわけないなあ。

気づくと結婚から18年。結婚する前も、結婚してからも、あなたはいつも真剣に働いて、働いて、ケアマネジャーのときも、地域医療連携室（とか言ってたっけ）のときも、病院のリニューアルに関わっていたときも、他はもう忘れてしまったけどいろいろな部署をわたり歩いて、いつも体も心もすり減らしながら働いてきました。社会の底辺で、しかし真面目に働き、普通に生活している人たちの医療を守るためにがんばってきました。

いま、政治も、現場も、貧乏人や年寄りには医療を受ける権利はないとでもいうような流れがつよまっているときに、医療の職場を去らなければならないことは本当に無念だろうと思います。

あなたはそうやって働いて、私たちの家族を守ってくれました。あなたにばかり負担を強いたこと、苦しいときに夫としてほとんど支えになれなかったこと、申しわけない思いでいます。みずきも航太も父は頼りないと思って、あなたを大人の手本として育てています。言葉はきついときもあるけど、本当に優しく、がんばりすぎてしまうほどがんばる、お母さんのような大人になってくれればと思います。

まだ人生の半分くらい、いまは幕間の休憩を少し長めにとって、次のステージにそなえましょう。夫が頼りないばかりに、お互いの両親にあまえるのは不本意かもしれないけれど、次の場面では親孝行もできるようになりたいと思います。夫としても、これまでのことをつぐないながら、家庭を支えていきたいと思っています。

梅村政年



夫とブルーポネットで

お母さんありがとう

お母さん、21年間お疲れさまでした！

Eぶん(はい)には、毎日電話して泣いて泣いて
 悩ませたり心配かけてたりしたと思うけど、
 今はお母さんが働いてくれていてよかったなって思うよ

そのおかげで保育園に行くことができて
 いろいろめいわがしめいは経験ができたから
 いっしょにめいわ夜遅くまで働いてるお母さん
 カッコよく我慢してたし、仕事なんかしてあげれば
 おかえりなごめんね

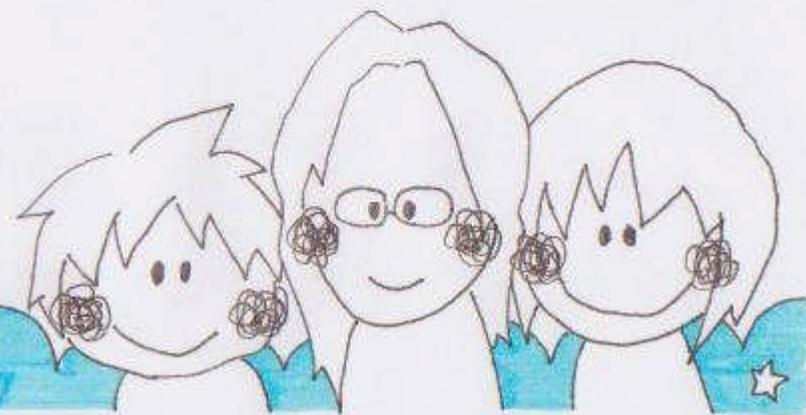
だいたいお母さんが働いて、毎日電話して泣いてる時
 うちにお母さんの気持ち話してくれてる時、お母さん
 ありがとうってかいてお母さんごめんね...
 お母さんは自分で決めて仕事やめることにして、
 うちのことでもよく頑張ってくれて、他人のことでもいろいろ
 気にしてて本当にありがとう

このころはもう少し気ぬいて自分のこといろいろ
 決めてたのうにことよくさんでてほしい
 21年間ありがとうがまんばあさんから
 お母さんありがとう♡おとこいばいしやばあさん

お母さん
 ありがとう

21年間 お疲れさまでした。

いつもめいわくをにかけてごめ
 んなさい。
 毎日宿題とかやってなからたり、
 やらなさい。いけないものをやってなから
 たときおこしてくれていてありがとう。
 これからもよろしく。こうた



5/10「あいがとうの会」

退職してしばらくはなんとも言えない喪失感で、ぼんやりと過ごす日が続きました。そんな時慢性疾患セルフマネジメント研修で学んだことを思い出したのです。「常に自分のアクションプランを持ち、それを達成する中で自信を持つことが大事！」と。

「いま、やりたいことはなにか？」と考えたとき、「21年間の出会いとつながり 駆けつけてくれた神谷さん に感謝したい！」「お世話になった人たちに『ありがとう！』を伝えたい！」と思いました。

短期間の声かけにもかかわらず、会場の「中華みなみ」には、21名の人たちが集まってくれました。

ひとりひとりから、出会いや思い出などメッセージをもらって、私からの感謝を伝えるという形で、会を進めましたが、驚いたことに半数以上が、実は私とは一度も同じ職場で働いたことのない人たちでした。私の仕事が庶務課やリニューアル、連携室という特殊な仕事だったせいもありますが、いろんな出会いとつながりに支えられてきたことを実感して、本当にうれしくて、感激いっぱいのあたたかい会になりました。

忙しいのに集まってくれたみなさん、急なお願いにも関わらず、メッセージを寄せてくれたみなさん、本当にありがとう！カメラマンを買って出てくれた渡辺さん、ギターと歌「そんな町を」「野に咲く花のように」を準備してきてくれた加藤さん、ありがとう！これからも、末永く、よろしくおつきあいください。



みなさんからのプレゼント！



今日の会で、みなさんや梅村さんの話を聞いて、梅村さんが生協でやってきた仕事やいろんな人とのつながりが良くわかりました。どこにいても、本当に前向きにひたむきにがんばっていたんですね。参加してよかったです。本当に本当にお疲れさまでした。

加藤敦子

梅村さん、長い間ありがとう！
人は何を集めたかではなく、何を与えたかが本当に大切。これからも多くの人に多くの大切なものを与え続けてください！

小川燈



←リハビリの松本さんが書いてくれた似顔絵



↑開業医の村田先生からもお花を届けていただきました

心かよい合う仲間がいることは、とても素敵なことですね。梅村さんの誰に対しても誠実に向き合う人柄を感じるステキな会でした。21年間頑張り過ぎた年月でしたが、梅村さんが生協に残してくれたものはとても大きく、感謝の気持ちでいっぱいです。少しのんびりして、これからも梅村さんらしく輝いていてください。

田口文子



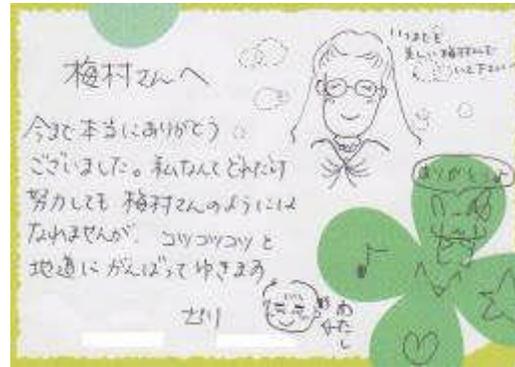


梅村さん、21年間お疲れさまでした。その1年少々お世話になったのですが、私にとっては、こんなにステキな人に会えたことが幸せでした！“あこがれの人”です。私でよければ、いつでも呼んでくださいね。仲良くしてください！

安田郁子

梅村さん、21年間お疲れさまでした。退職されることは大変残念ですが、梅村さんとはこれからもずっとつながっていきけるような気がします！梅村さんの元気であたたかさ
と笑顔にたくさ～んの人が勇気づけられ、助けられたと思います（私もその一人）。これからもずっと輝いていてください。梅村さんと出会えて、本当に感謝しています。
素敵な会に呼んでいただいてありがとうございました。

松江美帆



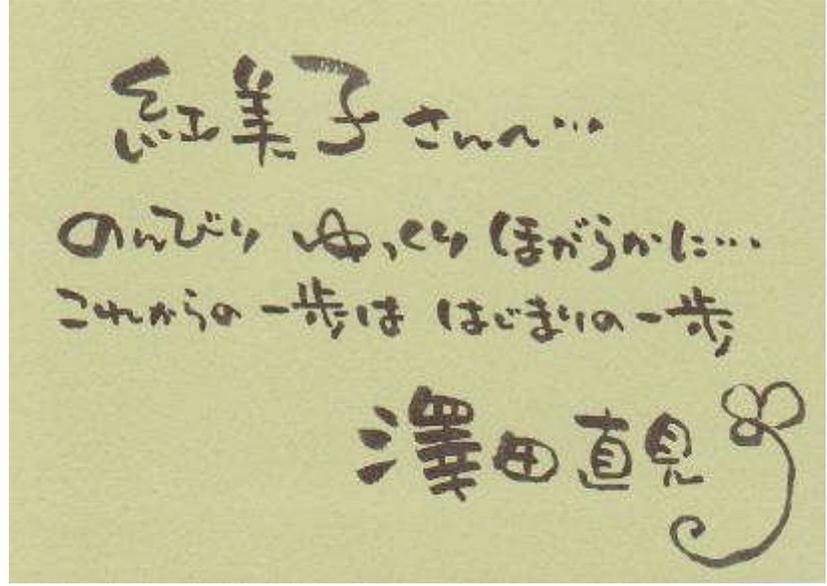
みなさんには、私の大好きな澤田さんのポストカードと「当たれば1500万円」宝くじをプレゼントしました。



21年間、いろいろあったけど、「私、生協で働けて、こんなにたくさん仲間がいて、幸せだなあ」と思えました。たくさんの勇気と力をくれたみなさん、本当にありがとうございました。また、新たな出会いとつながりを求めて、さぁ出発です！



←カメラマンに徹してくれた渡辺さん、ありがとう！





《編集後記》

「ありがとうの会」でみなさんにお渡ししたいと思い、作り始めましたが、書いているうちにいろんなことが浮かんできて、こんなボリュームになってしまいました。これもまた「私らしい」かな？と思っています。

退職してから、今日でちょうど2ヶ月になります。

体の調子は、常時鎮痛剤などを飲んで、日常生活はなんとかこなしていますが、低気圧の通過など天気が荒れると全身激痛で、そういう時は一日布団の中だったりします。でも、以前のような絶望感に襲われることはなくなりました。

「退職したんだって。あなたみたいな人が生協には必要なのに…」とか、「一緒にご飯でも食べようよ！」といろいろな人に声をかけてもらって、楽しい毎日を過ごしています。

体調がよくなったら、仕事はしたいと思っています。「絵本が読めて、フラワーアレンジメント教室にもなる喫茶店」も、いつか宝くじが当たったら、ぜひ実現したい夢です。

「自分の価値は自分が決める！」これを忘れずに、でも、いつも新たな出会いとつながりを求めて、これからもいろんなことにチャレンジしていきたいと思います。

心配もいっぱいかけるとは思いますが、見守っててくださいね。

《発行者》 梅村紅美子（くみこ）

〒459-8001 名古屋市緑区大高町伊賀殿 12-1-103

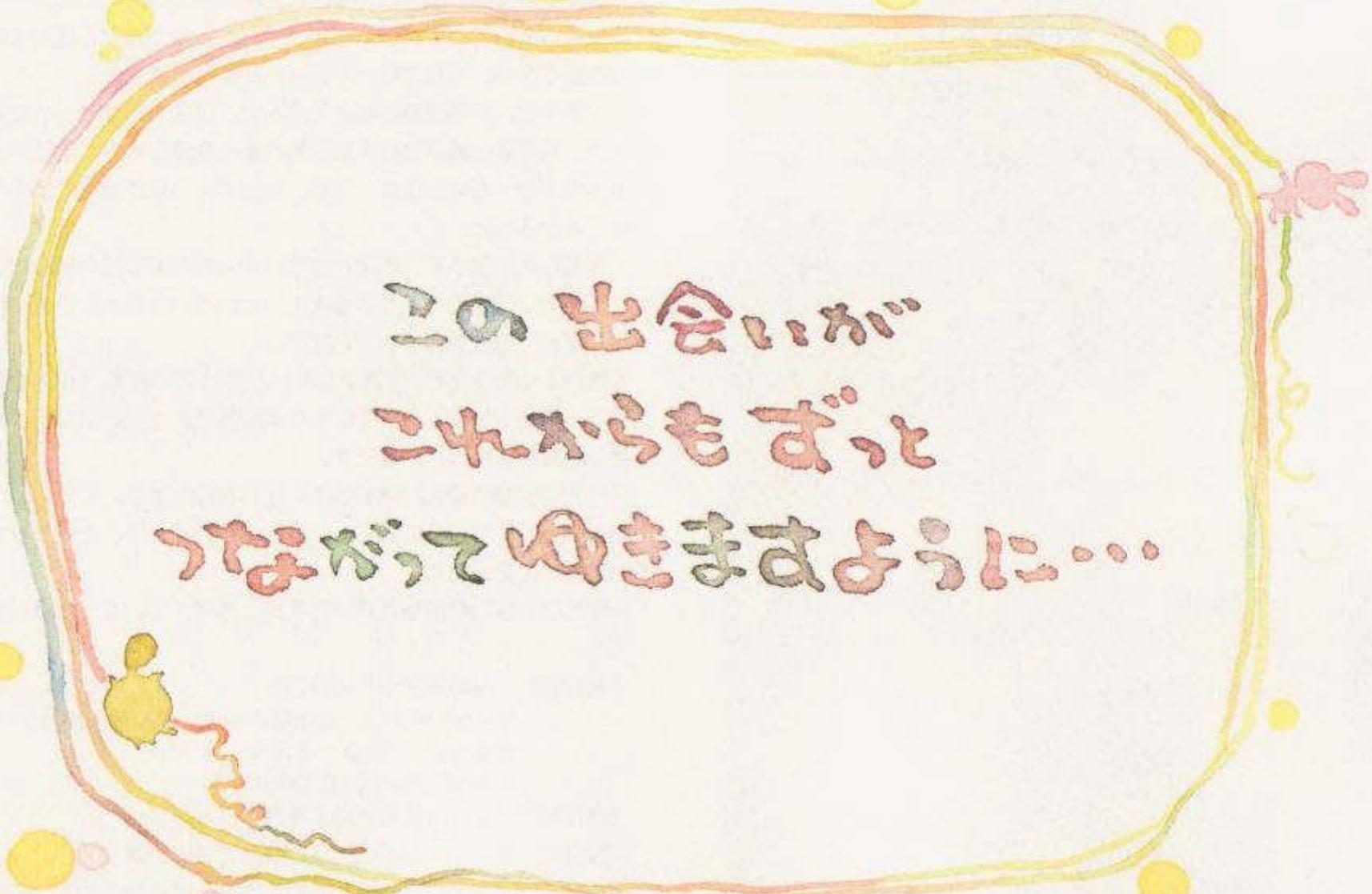
☎&fax 052-624-5997

E-mail : beni@d5.dion.ne.jp

《発行日》 2008年6月14日

《製作協力者》 澤田直見さま 大谷どすけさま

ほかたくさんみなさま ありがとうございます。



この出会いが
これからもずっと
つながってゆきますように...